



2007 年 10-12 月期の動向と今後の見通し

2008 年 3 月

財団法人 日本交通公社

☆観光文化事業部

東京都千代田区丸の内 1-8-2

Tel.03-5208-4704 Fax.03-5208-4707

<http://www.jtb.or.jp>

## JTBF 観光経済レポート VOL. 18 目次

■観光経済レポート Vol. 18 イン트로ダクション	
今回のトピックスレポート	1
2007年10-12月期の総括と今後の見通し	1
■トピックスレポート	
2007年11月実施	
「オピニオンリーダーに聞く JTBF 旅行者モニター調査（トピックス編）」／塩谷英生	2
■2007年10-12期 観光地動向 /相澤美穂子	19
観光地動向トピックス 2007年の動向 /相澤美穂子	23
■2007年10-12月期 宿泊動向 /安達寛朗	25
宿泊動向トピックス 2007年の動向 /安達寛朗	34
■付属統計表	35
◆出版物のご案内	36

### 『観光経済レポート』の発行の終了について

当財団では4年半にわたりまして、自治体の皆様を対象に「観光客動向に関するアンケート調査」を、宿泊施設の皆様を対象に「宿泊動向調査」を実施して参りましたが、2007年より国土交通省が『宿泊旅行統計』を整備したことを踏まえて、今年度を以て調査を終了させて頂く運びとなりました。両調査を柱として発行して参りました機関誌『観光経済レポート』につきましても今回で終了させて頂きます。ここで読者の方々をはじめ、回答協力いただいた自治体や宿泊施設の皆様の長きにわたるご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます次第です。誠にありがとうございました。

なお、「オピニオンリーダーに聞く旅行者モニター調査」については継続実施し、旅行市場の構造分析と、それを踏まえた将来動向の予測に注力して行く所存です。その成果については、ホームページ上で随時発信していく予定ですので、閲覧いただければ幸いです (<http://www.jtb.or.jp/>)。

今後も、社会経済の変化や地球温暖化問題など、旅行・観光市場を巡る環境は大きく変化していくことが予想されます。私どもでは適宜、テーマを定めて観光政策担当の皆様や宿泊施設の皆様を対象にアンケート調査等を実施していきたいと考えておりますので、旧に変わらぬご支援をお願い申し上げます次第です。

(塩谷 英生)

## 観光経済レポート Vol.18

— 今回のトピックスレポート

— 2007年10-12月期の総括と今後の見通し

## Topics

## 「オピニオンリーダーに聞く J T B F 旅行者モニター調査」 / 塩谷英生

この調査は、国内宿泊観光旅行のオピニオンリーダー層を“旅行が好きで、旅行頻度が高く、情報が豊富で先行性を持ち、周囲への影響力を持つ人々”と位置づけて選抜し、彼らの意向をモニタリングすることで市場構造の変化を捉えていこうとするものです。調査の構成は、前回のレギュラー設問編に続き、今回はトピックス編を掲載します。ご紹介するのは、「旅行計画の立て方のこれまでと今後」「オススメの旅行先をオススメする理由」「独自の世界観やライフスタイルをもつ観光地」「一番良かった宿泊施設にあてはまる特徴」「海外旅行経験が変えた国内旅行観」の5つの設問結果です。

## 2007年10-12月期の総括と今後の見通し【概要】

## 10-12月期の総括 ～ 宿泊客数は低調。施設の老朽化、ガソリン代高騰など理由に。

- ・ 「観光地動向調査」による2007年10-12月期の観光客数は前年比DIが2.0%ポイント増となった\*。ガソリン価格高騰による入込減は一部で見られたものの、キャンペーンやイベントの効果や、天候の安定などから前年を上回った。
- ・ ガソリン価格高騰等で「北海道」、「新潟県中越沖地震」の影響で「甲信越」がそれぞれ減少、「東北」「東海」はメディアへの露出やPR効果、「近畿」「中国」「四国」「九州」は主にイベントの好調から前年比増のDI値となった。
- ・ 宿泊・日帰り別のDI値は、宿泊施設の閉鎖・老朽化や、県外からの入込減により宿泊客が△9.4%ポイント減、日帰り客が観光施設の好調から2.3%ポイント増となった。
- ・ 「宿泊客動向調査」における10-12月期の「旅館」の客室稼働率は60.6%で前年同期比△0.3%となり、「ホテル」の客室稼働率も72.7%で△0.3%と2四半期ぶりに減少した。
- ・ 方面別では、「四国」で大きく落ち込んだ他は、大きな増減は見られなかった。ホテルでは、前年に航空会社のキャンペーンがあった「沖縄」で減少幅が大きくなっている。
- ・ 宿泊単価は旅館が14,575円(1.2%増)、ホテルが9,387円(0.2%増)と上昇している。

## 今後の見通し ～ 観光地はプラスを見通すも、宿泊施設は低迷を予想。

- ・ 08年1-3月期の観光客数見通しDI値は、DI2.9%ポイント増、4-6月期については15.8%ポイント増といずれもプラスの見通しとなった。特に4-6月期は全ての地域、観光地タイプでプラスとなっており、観光客の増加が期待される。
- ・ しかし、経済効果の大きい宿泊客については、08年1-3月期の宿泊客数見通しDI値は、「旅館」「ホテル」ともに宿泊者数、宿泊売上においてマイナスを示している。団体客の減少傾向、原油価格高騰、地方における個人消費の停滞感、競合施設のオープンなどの影響が指摘されている。

\*前回の調査から観光客数の増減傾向については実数または前年比を数値で記入する形式から「かなり増」「やや増」「前年並み」「やや減」「かなり減」の5段階からひとつ選ぶ形式に変更した。

## ■ オピニオンリーダーに聞くJTBF旅行者モニター調査

第1回・2007年11月実施 [その2. トピックス編]

### 1. この調査について ~ 大規模インターネットパネルから4%のオピニオンリーダー層を抽出

この調査は、国内宿泊観光旅行のオピニオンリーダー層(図表中 OL 層とも言う)を“旅行が好きで、旅行頻度が高く、情報が豊富で先行性を持ち、周囲への影響力を持つ人々”と位置づけて選抜し、彼らの意向をモニタリングすることで市場構造の変化を捉えていこうとするものです。今回は、レギュラー設問編を紹介しましたが、今回はトピックス編を掲載します。ご紹介する調査結果は、「旅行計画の立て方のこれまでと今後」「オススメの旅行先をオススメする理由」「独自の世界観やライフスタイルをもつ観光地」「一番良かった宿泊施設にあてはまる特徴」「海外旅行経験が変えた国内旅行観」についてです。  
(塩谷 英生)

#### ■ 調査の手法

##### ■ オピニオンリーダーの抽出方法

###### ①スクリーニング調査による抽出

- ・ 調査時期：2007年11月中旬
- ・ 調査方法：インターネットリサーチ
- ・ 調査対象：全国20歳以上の男女
- ・ 予備調査回答数：30,000票
- ・ 予備調査項目：旅行嗜好、年間宿泊旅行回数、国内観光地への来訪経験(9箇所)、旅行に関する意識、旅行関連業界への勤務の有無等
- ・ 本調査抽出条件：旅行が「大変好き」で、1年間に4回以上国内宿泊旅行(出張・帰省は除く)をし、9箇所中2カ所以上の観光地来訪経験があり、観光関連業界に勤めていない人

###### ②本調査による抽出

- ・ 本調査標本数：2,000票(但し、抽出条件を満たした回答者は2,740人で抽出率は9.1%)  
(「20代」～「60代以上」の各年代の男女が各200票となるように標本を確保)
- ・ オピニオンリーダー層の選抜方法：
  - ・ オピニオンリーダーとしてのモニター適性の評価軸を、**A.旅行頻度**、**B.市場への先行性**(情報量と市場への先行性)、**C.市場への影響力**、及び**D.モニター調査手法への適性**(公平な評価、回答内容の虚偽性、調査への協力度等)の4つの軸と定め\*、各評価軸に関連性の深い設問を選び、回答選択肢毎に得点を適宜設定し、AからDの評価軸毎に回答者の得点を計算した。
  - ・ 集計前に、明らかな無効回答61票を除外した。
  - ・ 各評価軸の満点が100点になるように規準化した上で総合得点(400点満点)を算出した。  
(総合得点の分布は、平均値196.9点、標準偏差35.1)
  - ・ 回答者のうち200点以上の回答者をオピニオンリーダー層として抽出した。
- ・ オピニオンリーダー抽出数：892票(抽出率44.6%。予備調査回答数に対する推定抽出率は4.1%)  
非オピニオンリーダー層1,047票、無効票61票

##### ■ 本調査質問項目

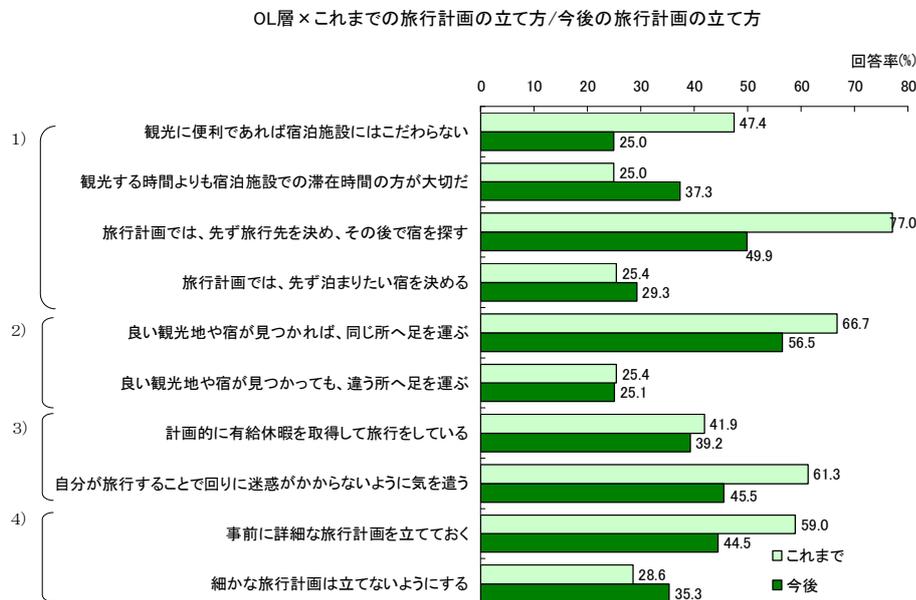
- ・ レギュラー設問：旅行情報源、旅行で重視する点、観光地等来訪経験、実施旅行タイプ・希望旅行タイプ、オススメ旅行先、泊まりたい宿泊施設、土産話の相手、ブログ等での発信、年間旅行費用、宿泊単価、同行者、趣味、職業、世帯収入、収入源、性、年齢、居住地等
- ・ トピックス設問：旅行に関する考え方、旅行計画の立て方(これからと今後)、独自の世界観のある観光地、一番良かった宿泊施設にあてはまる特徴、海外旅行で変わった国内旅行の見方、利用旅行会社等

\*この他の軸である旅行嗜好については、予備調査で「旅行が大変好き」という抽出条件を設定した。

※本調査レポートの集計結果は、オピニオンリーダー抽出基準の見直し等によって今後修正される場合があります。

## 2. 旅行計画の立て方の「これまで」と「今後」

旅行計画の立て方の「これまで」と「今後」について、10項目を挙げて重視している項目を選んでもらいました。オピニオンリーダー層（892名）の回答結果は、次の図のとおりです。



### 1) 旅行先の決め方 ～「宿」が先に決まる人は25%。今後は29%と増加。

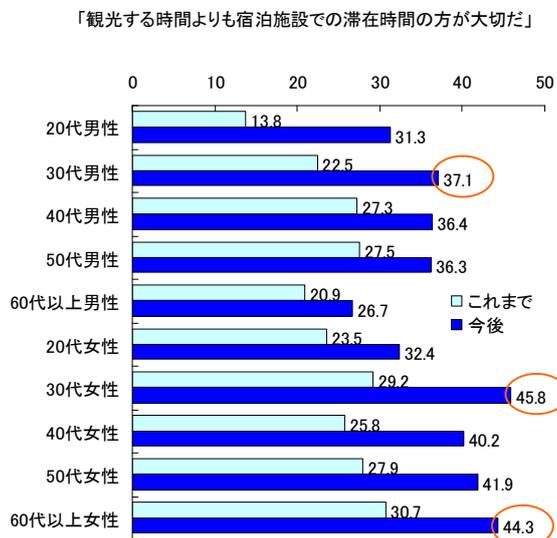
「これまで」についてみると、「旅行計画では先ず旅行先を決め、その後で宿泊施設を探す」人が77.0%と主流となっていて、「旅行計画では、先ず泊まりたい宿を決める」という人は25.4%です。

また、やや角度を変えた質問となりますが、「観光に便利であれば宿泊施設にはこだわらない」という人は47.4%、「観光する時間よりも宿泊施設での滞在時間の方が大切だ」は25.0%となっています。「先ず泊まりたい宿を決める」と「宿泊施設での滞在時間が大切」という回答層はほぼ重なっていて、このようなタイプの観光客は、宿泊施設の外にあまり“出てこない”ため、観光地にとっては認識しにくい客層と言えます。宿泊施設滞在型の旅行として、従来のイメージの宿泊観光旅行とは区別して市場を把握することが必要となるでしょう。

次に、「今後」の旅行計画の立て方については、「宿泊施設での滞在時間の方が大切だ」が37.3%に大幅に増加し、「先ず泊まりたい宿を決める」も29.3%へと増加していることがわかります。良質な滞在時間を提供してくれる宿泊施設にとっては、追い風が吹いているとみることができるでしょう。但し、この背景に、面的にみた観光地の訴求力の低下があり、それが宿泊施設滞在型旅行への重心移動として顕れているとすれば、宿泊観光市場全体にとっては厳しい回答結果と読むこともできます。

性年代別に「宿泊施設での滞在時間の方が大切だ」への回答率をみると、女性の30代と60代以上で高くなっています。男性は全般に低めですが、30代から50代にかけて比較的高くなっています。

なお、60代以上では、男性で「旅行先から決める」が多く、女性で「宿泊先から決める」が多いという傾向



があり、男女間で優先順位が異なっています。後述する「今までで一番良い印象を持った宿泊施設に当てはまる特徴」について、50代以上の男性と60代女性で「宿の周辺を散策しても楽しめる」の比率が高いという特徴がみられますので、熟年夫婦旅行の宿泊先決定過程においては宿周辺の散策魅力が訴求ポイントの一つになりそうです。

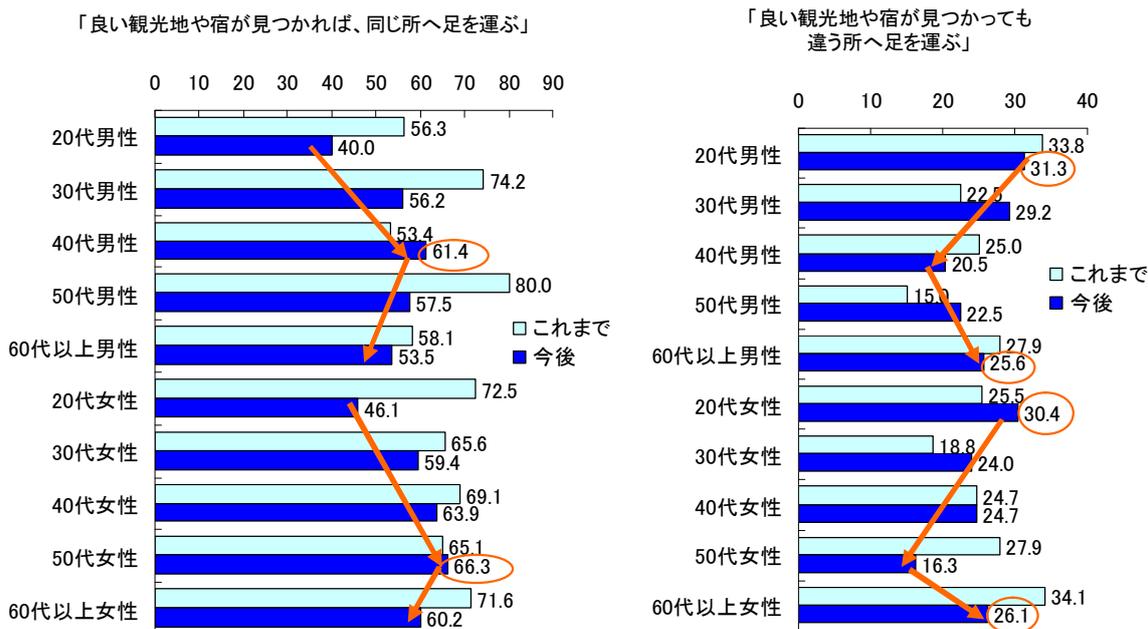
## 2) リピートへの志向 ～「今後」に「同じ所へ足を運ぶ」が多いのは男性40代と女性50代

リピートに対する考え方について、簡単な質問を2つ投げてみました。

「良い観光地や宿が見つければ、同じ所へ足を運ぶ」という回答は、「これまで」の66.7%に対して、「今後」が56.5%とやや少なくなっています。一方、「良い観光地や宿が見つかって違う所へ足を運ぶ」は「これまで」の25.4%に対して、「今後」が25.1%とこちらも微減となりました。2つの設問ともに「今後」が減少しているのは、「ケースバイケースである」という層が多いためとも考えられます。今後、宿泊施設や観光地に分けた上でもう少し詳しい質問を加えていきたいと思えます。

年代別にみると「同じ所へ足を運ぶ」は「これまで」では男性で50代、女性で20代が高くなっていますが、いずれも「今後」についてはその比率が低下しています。「今後」についてみると、男性では40代が61.4%、女性では50代が66.3%と最も回答率が高くなっています。

また、「今後」に「違うところへ足を運ぶ」人の年代別傾向は、男女とも20代と60代以上で高い傾向があります。

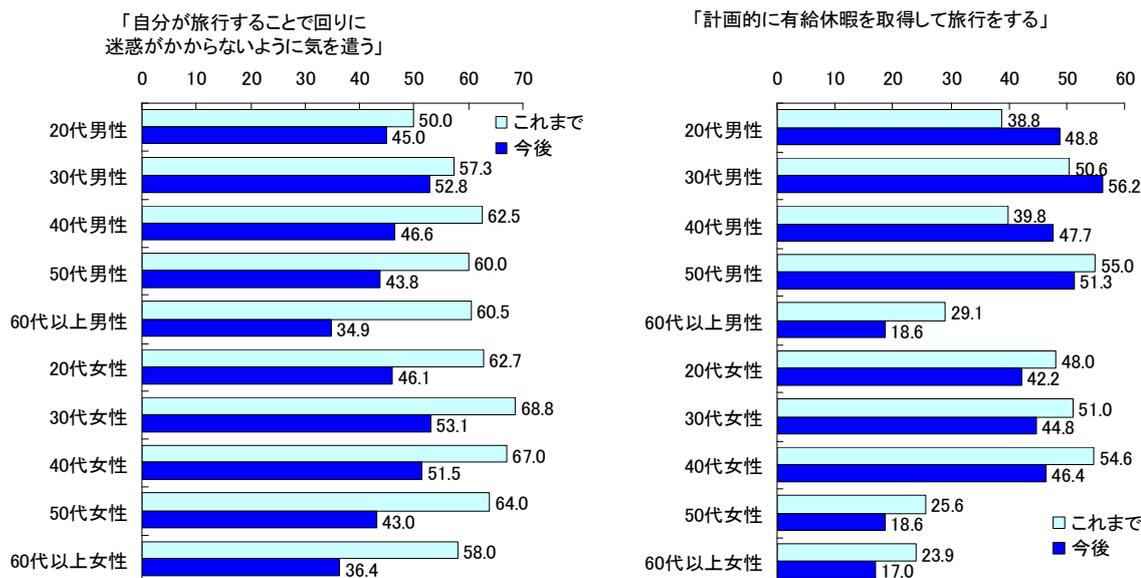


## 3) 周囲への配慮と有給休暇の計画取得 ～年代が上昇すると「気を遣う」比率が低下

「計画的に有給休暇を取得して旅行をしている」は「これまで」が41.9%に対し、「今後」では39.2%と若干減少しています。また、「自分が旅行することで回りに迷惑がかからないように気を遣う」人の比率は、「これまで」の61.3%に対し、「今後」では45.5%に減少しています。

この2つの質問に関しては、30代以降に年代が上昇するに従って、旅行の際の周囲への気遣いや有給休暇の計画取得の比率が減少する傾向がみられます。

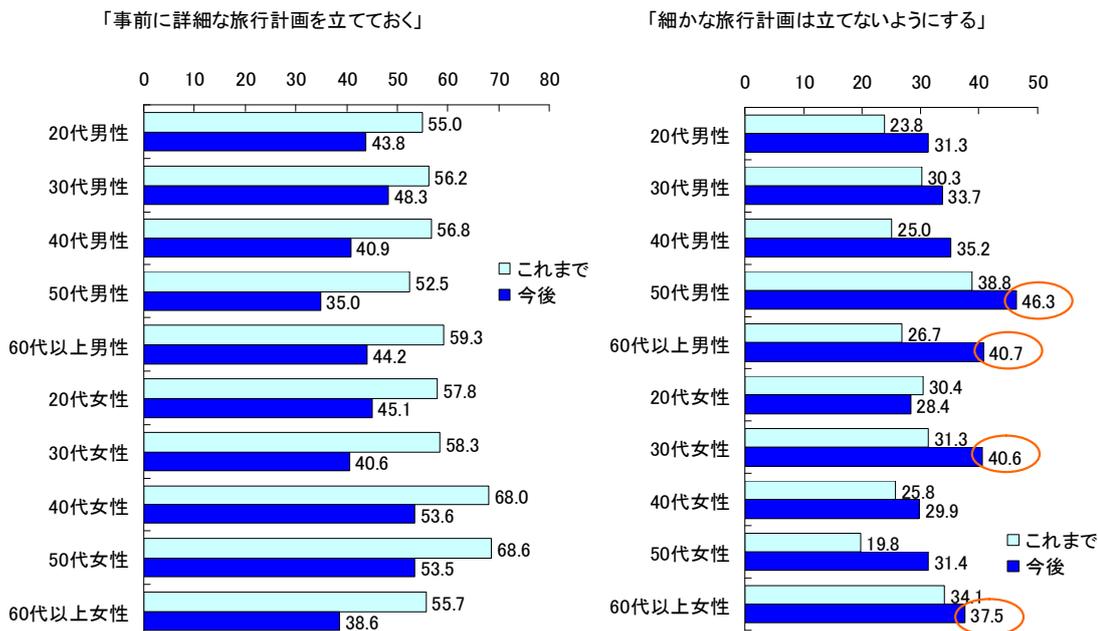
「今後」についてみると、「計画的に有給休暇を取得」が「これまで」よりも「今後」で高くなっている層は、20代から40代の男性だけです。また、「気を遣う」比率が最も高いのは男女ともに30代で、40代以降は年代が上昇すると減少する傾向があります。



#### 4) 詳細な旅行計画を立てるか ～ 「細かな計画は立てない」が増加

「事前に詳細な旅行計画を立てておく」は「これまで」が59.0%に対し、「今後」が44.5%と低下しています。一方、「細かな旅行計画は立てないようにする」は「これまで」が28.6%に対し、「今後」が35.3%と高まっています。但し、この「今後」に「細かな旅行計画は立てないようにする」人は、「良い観光地や宿が見つかっても違うところへ足を運ぶ」と「宿泊施設での滞在時間の方が大切だ」の選択率がいずれもオピニオンリーダー層の平均よりも高くなっています。「細かな計画を立てない」人は、旅の自由度を重視する「何も決めない」タイプと、「宿でのんびりしたい」といった「何もしない」タイプに大別されると考えることもできます。

「今後」に「細かな計画は立てない」人を性年代別にみると、20代女性を除く各層で「これまで」よりも増えています。特に、40代男性、60代以上男性、30代女性、50代女性で「これまで」とのギャップが大きくなっています。回答率は、50代から60代の男性、60代女性の熟年層と30代女性で高くなっています。



### 3. オススメの旅行先とオススメする理由

#### 1) オススメの旅行先（前号より再掲）

最近行かれた国内旅行の中で、他の人にもオススメしたい旅行先について挙げてもらいました。

オピニオンリーダー層のトップは①沖縄県で、15.9%の回答を集めました。回答旅行先は「沖縄」が主ですが、「石垣」「宮古」「西表」など八重山の回答も目立ちました。②北海道が116票を集めて第2位、以下、③鹿児島県、④長野県、⑤京都府、⑥岐阜県と続いています。非オピニオンリーダー層(1,047人)と比べると、鹿児島県や青森県が上位に挙げられています。

■オピニオンリーダー層に聞いたオススメの旅行先(都道府県別集計結果)

no.	都道府県	OL層 (票)	回答率	都道府県名以外に回答に挙げた 主な観光地(複数回答、OL層)	非OL層 (票)	回答率
1	沖縄県	142	15.9%	石垣、宮古、西表など	147	14.0%
2	北海道	116	13.0%	旭山動物園、知床、函館など	141	13.5%
3	鹿児島県	44	4.9%	屋久島、奄美、霧島など	39	3.7%
4	長野県	40	4.5%	上高地、軽井沢、別所、屋神	73	7.0%
5	京都府	39	4.4%		59	5.6%
6	岐阜県	37	4.1%	高山、白川郷、奥飛騨温泉	55	5.3%
7	大分県	31	3.5%	湯布院、別府	33	3.2%
8	青森県	31	3.5%	白神山、奥入瀬	22	2.1%
9	福島県	27	3.0%	会津若松、磐梯山	30	2.9%
10	兵庫県	21	2.4%	淡路、姫路、城崎、宝塚、神戸	19	1.8%
11	静岡県	20	2.2%	伊豆	36	3.4%
12	三重県	18	2.0%	伊勢神宮、志摩、なばなの里など	6	0.6%
13	神奈川県	17	1.9%	箱根、横浜、鎌倉	28	2.7%
14	熊本県	16	1.8%	黒川、阿蘇	16	1.5%
15	島根県	16	1.8%	石見銀山、出雲、足立美術館など	14	1.3%
16	栃木県	14	1.6%	那須、奥日光	12	1.1%
17	群馬県	13	1.5%	草津、万座	17	1.6%
17	千葉県	13	1.5%	TDR、館山	16	1.5%
17	長崎県	13	1.5%	五島、HTB、雲仙、島原など	14	1.3%
17	秋田県	13	1.5%	八幡平、角館	12	1.1%

#### 2) オススメの理由 ～ 「時間がゆっくり」が2位

「オススメする理由」を20の選択肢から選んでももらいました。

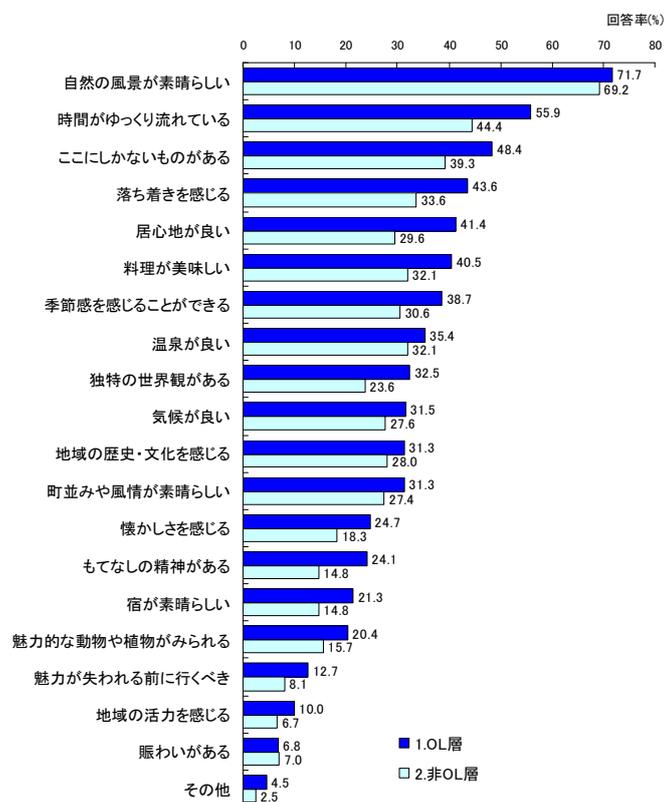
オピニオンリーダー層で最も多いのは①「自然の風景が素晴らしい」71.7%、次いで②「時間がゆっくり流れている」55.9%、③「ここにしかないものがある」48.4%と続きます。

選択肢全般に、非オピニオンリーダー層に比べてオピニオンリーダー層の方が選択率が高くなっています。この層が旅行先について「語る言葉」を多く持っていることを示すものでしょう。

性別にみると、女性で選択率が高いのは「時間がゆっくり流れている」「居心地がよい」「季節感を感じることができる」「宿が素晴らしい」などです。男性では、「地域の歴史・文化を感じる」「町並みや風情が素晴らしい」などがやや高くなっています。

年代別にみると、「自然の風景が素晴らしい」「時間がゆっくり流れている」「温泉が良い」などで年代が高いほど比率が高い傾向がみられます。逆に「独特の世界観がある」「町並みや風情が素晴らしい」は若年層で選択率が高い傾向があります。これらの結果を正確に解釈するためには、オピニオンリーダー層が旅行先を推薦する相手としてどういった層をイメージしているのかなどを含めて、もう少し詳しい設問が必要となるでしょう。

OL層・非OL層×その旅行先をオススメする理由



#### 3) 旅行先別にみた特徴 ～ 沖縄は「ゆっくり流れる時間」、北海道は「料理」

「オススメの旅行先」の上位6道県についての「オススメする理由」を比較してみます。各観光地が提供している効用の地域差がある程度捉えられるかと思えます。

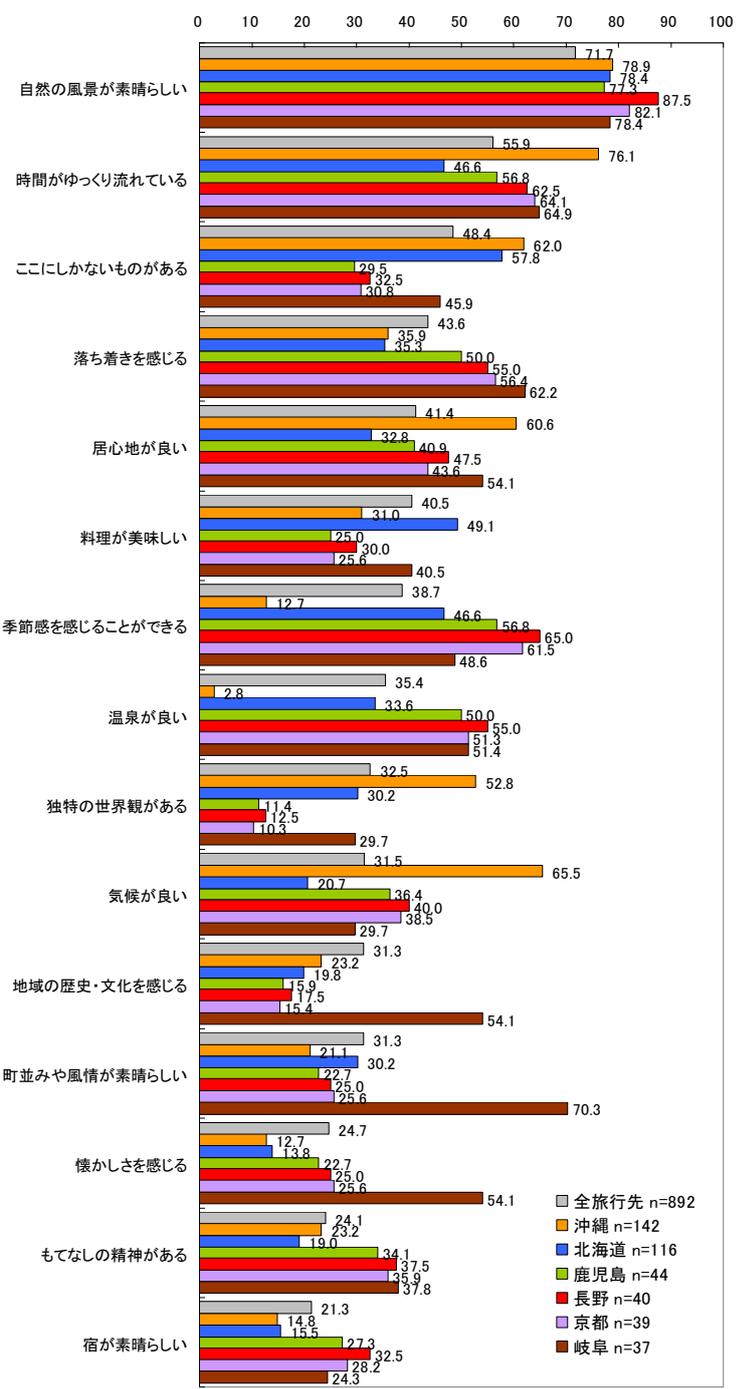
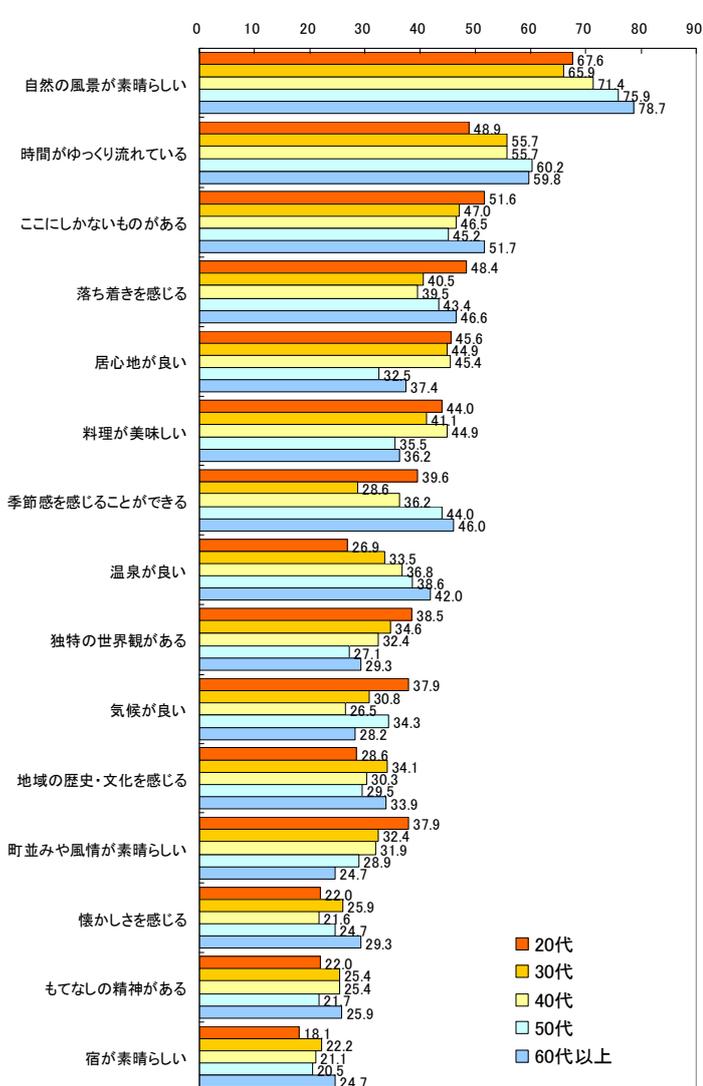
①沖縄県については、「時間がゆっくり流れている」「ここにしかないものがある」「居心地がよい」

「独特の世界観がある」「気候が良い」などの項目が6道府県でトップとなっています。

②北海道については、「料理が美味しい」がトップで、「ここにしかないものがある」「町並みや風情が素晴らしい」が2番目に付けています。なお、函館、小樽などを旅行先に挙げた人が「町並みや風情」を選択しています。③鹿児島県には突出した特徴はみられませんが、約6割を占める「屋久島」については「自然の風景が素晴らしい」「独特の世界観がある」「ここにしかないものがある」が高くなっています。④長野県は、「自然の風景が素晴らしい」「季節感を感じることができる」「温泉が良い」「宿が素晴らしい」でトップとなっています。⑤京都府では、「自然の風景が素晴らしい」「落ち着きを感じる」「季節感を感じる」「宿が素晴らしい」が2番目にあります。⑥岐阜は、「落ち着きを感じる」「地域の歴史・文化を感じる」「町並みや風情が素晴らしい」「懐かしさを感じる」「もてなしの精神がある」でトップの回答率となっています。

オピニオンリーダー層のオススメ旅行先をオススメする理由(上位6位)

オピニオンリーダー層のオススメ旅行先をオススメする理由(年代別)



#### 4. 独自の世界観やライフスタイルをもつ観光地

旅行計画の立て方が今後、宿泊施設という地点レベルでの滞在重視へとシフトする傾向がある中で、対する観光地あるいは観光ルートにおいては、面的・線的にみたアイデンティティをいかに打ち出していかかが問われていくでしょう。そして、アイデンティティの形成には、観光地に所在する観光資源だけでなく、観光地域のコミュニティの持つ生活風景や生活様式、あるいは人々の人生観といったものが重要な役割を果たしていくものと考えられます。

今回お聞きした質問は、「これまで訪れた国内観光地の中で独自の世界観やライフスタイルがあると感じたところはどこですか（テーマパークなどは除きます）。」「それはどんな世界観ですか」という一般消費者に聞くにはやや難しい質問です。オピニオンリーダー層の回答状況をもて、「難しい質問ですが」という前置きから始まる回答も幾つかみられました。しかし、全体としては興味深い回答が多く見受けられましたので、以下で自由回答を含めてご紹介したいと思います。

なお、前述の「旅行先をオススメする理由」では、「独特の世界観がある」は9位（32.5%）に留まっていますが、1位の「自然景観」も、2位の「時間がゆっくり流れている」も実は世界観を形成する重要な要素となっています。「世界観」とは、「自然景観」「温泉が良い」といった様々な観光地特性を包括した概念であり、今後は、別途消費者の旅行先選定における重要性を測っていきたいと思います（このことは宿泊施設の世界観についてもほぼ同様と考えます）。

##### 1) 独自の世界観やライフスタイルを持つ観光地 ～ 沖縄県、北海道の順

先ず、世界観のある観光地を都道府県単位で集計すると、次の表の通りで、①沖縄県が28.4%と抜き目出て高く、以下②北海道11.9%、③京都府10.0%、④岐阜県9.7%が10%前後、⑤大分県、⑥鹿児島県、⑦長野県は3%台となっています。

次に、観光地単位の集計については、例えば「飛騨高山・白川郷」と「高山」をどう統合するか、「八重山諸島」と「西表島」を統合するのか、しないのかといった判断が難しいのですが、回答の傾向を踏まえて適宜観光地を括っていく作業をして集計をしています。

Q11.独自の世界観やライフスタイルがある観光地(都道府県集計)

都道府県	回答数	回答率
1 沖縄県	234	28.4%
2 北海道	98	11.9%
3 京都府	82	10.0%
4 岐阜県	80	9.7%
5 大分県	29	3.5%
6 鹿児島県	27	3.3%
7 長野県	26	3.2%
8 大阪府	15	1.8%
9 福島県	13	1.6%
9 三重県	13	1.6%
回答計*	823	100.0%

\*「東北」「城下町」など分類不能な回答を除く

Q11.独自の世界観やライフスタイルがある観光地

観光地	回答数	回答率
1 沖縄(全般)	171	20.6%
2 京都(全般)	70	8.4%
3 沖縄の離島	55	6.6%
4 白川郷・五箇山	41	4.9%
5 高山(飛騨高山)	38	4.6%
6 北海道(全般)	35	4.2%
7 湯布院・湯平	21	2.5%
8 屋久島	18	2.2%
9 大阪	14	1.7%
9 知床	14	1.7%
11 伊勢	13	1.6%
12 会津	12	1.4%
13 金沢	10	1.2%
13 道東(除知床)	10	1.2%
15 上高地	8	1.0%
16 奈良	7	0.8%
16 旭山動物園	7	0.8%
16 函館	7	0.8%
19 黒川温泉	6	0.7%
19 萩・津和野	6	0.7%
19 木曾	6	0.7%
19 日光	6	0.7%

注:「沖縄」といった回答は沖縄(全般)として括っている。  
その他、適宜類似回答の統合を行った。

その結果、上位は、①「沖縄(全般)」、②「京都(全般)」、③「沖縄の離島」、④「白川郷・五箇山」、⑤「高山(飛騨高山)」、⑥「北海道(全般)」などとなっています(「沖縄」「沖縄県」といった回答は「沖縄(全般)」として総合しています)。

沖縄県や京都府では「沖縄」「京都」という府県名での表記に集中しているのに対して、北海道では「北海道」との回答は比較的少なく、個別のディステーションに世界観が分化しているようです。

世界遺産登録がなされている観光地が多く挙げられているのも特徴的です。文化遺産では、「沖縄」「京都」「白川郷・五箇山」「奈良」「日光」、自然遺産では、「屋久島」「知床」が上位に挙げられています。

典型的な温泉地の中では、⑦「湯布院」が最上位となっています(「湯平」を一票含む。「由布院」「由布市」という表記は無く、回答者のほとんどが「湯布院」と表記しています)。温泉地では、これに⑩「黒川温泉」が続いています。

⑨「大阪」については、旅行先としての評価という枠を超えて、商人の感覚や、庶民の活力・にぎやかさなど、都市の持つ個性を語った回答内容が多くなっています。

## 2) どんな世界観なのか ~ 地域の人々の「思い」への共感目立つ

観光地の持つ世界観とは、どのようなものでしょうか。オピニオンリーダー層に自由回答で聞いてみました。主なディステーションに絞って具体的な世界観をみてみます(文末に回答を抜粋した表を添付しています)。自由回答を通して見た印象として(上位ディステーションだけに限らないことですが)、オピニオンリーダー層の多くは、地域の人々が彼らの歴史文化やライフスタイルを守ろうとする「思い」に共感しているようです。

### ①沖縄県 ~ 「時間がゆっくり流れている」と「異文化性」

沖縄の世界観として挙げられた回答タイプは主に2つあり、一つは、「時間がゆっくり流れている」という回答です。この「時間がゆっくり流れている」という回答は、温泉地や歴史観光地、自然観光地などでも重要な評価尺度となっていますので、それがどんな状況を表現したものなのかについては改めて明らかにしていく必要があるでしょう。

その手掛かりとして沖縄への自由回答をみると、住んでいる人が「ゆっくり」「ゆったり」していることが、ゆっくりした時間の流れを生んでいるという文脈が多くみられます。沖縄県民の持つ“なんくるないさ”精神や持ち前の明るさ、そして「カチャーシー」に象徴されるコミュニティの連帯感などが、慌ただしくストレスの強い日常生活を送る旅行者に安心感と居心地の良さを提供しているように思います。そして、「知らない者同士でも気さくに会話を交わす」「人との関わりが広くて上手い」といった沖縄県民のコミュニケーション能力の高さを指摘する回答も多く、観光客はコミュニケーションを通じて沖縄の世界観にスムーズに溶け込んでいける側面があります。

この他にも、「時計ではなく太陽の動きとともに暮らしがあがる」といった感覚を挙げる人や、「大な海洋景観と島人のゆったりした営み」のコントラスト、「球音楽のある暮らし」などに触れる回答もあり、「時間がゆっくり流れている」と感じさせるための、暮らし、景観、気候、文化などの仕組みが沖縄には揃っているようです。だからこそ、「時間がゆっくり流れていて、居心地が良い。何度行っても飽きない。」といった回答が寄せられるのでしょう。

沖縄の持つもう一つの世界観は、異文化性です。自由回答をみると、「日本の文化とどこか異質で、それでいて懐かしさが感じられる。」といった回答が多く見られます。長文の回答を引用しますと、「日本は南北に長く、気候に大きな差がありますから、昔は、それぞれのライフスタイルがあったと思いますが、今、考えると、やはり沖縄でしょうか。観光化のため、各地でいろんな独自の施設が作られ

ていますが、昔からの土地に根付いたものとして残っているのは沖縄か、と思います。大陸文化が色濃く残っており、言葉、風貌等・・・もう大陸でもない、日本でもない世界を感じる。」と、この辺りの世界観を代表した意見が寄せられています。

沖縄には、日本の南の玄関口としての歴史と米軍統治の歴史を経て、衣食住遊の各分野でいわゆる「チャンプルー文化」が醸成されてきました。例えば先日調べたところでは、コザにはロックンロールのライブハウスが30軒ほどあります（沖縄市観光協会 Kozaweb より）。これは沖縄市が人口13万人の市であることと考え合わせれば驚くべき数字です。

もう一つ重要な点は、「ノロ」や「ユタ」等にみられる土地や先祖への信仰心、お年寄りを大切にすることを考えるなど、古来の日本が持っていたであろう姿を沖縄の人々が時間を越えて保存している点が評価されていることです。沖縄県では08年度よりインバウンド誘致を強化していく方針ですが、中国文化やアメリカ文化についても「我々が失ったものが残っている」といった意見が中国人客などから聞かれるかもしれません。

## ②北海道 ～ 「広大な自然との共存」が世界観を形成

自由回答から、「広大な自然」が北海道（全般）の世界観を形作っていることがわかりました。キーワードとしては、雪景色、季節感、野生動物との共生、おいしい空気、（広い意味で自然に依存する）新鮮な魚介類といったものが目立ちます。個別の観光地でも、知床をはじめ、釧路、富良野、ニセコなどで、自然に関する自由回答が多く見られます。

また、沖縄とは趣きが異なるのですが、「大自然の中で生活している人たちの逞しさや優しさ。」「（北海道の）地方の人々の素朴さは昔の人の謙虚さや素直さを思い出させる力がある。」など、住民が厳しい自然と共存しながらおおらかに素朴に生きている様子を評価する回答が目立ちました。また、アイヌ文化が残っていることを評価する回答も5件ほど見受けられました。アイヌの世界観では、自然の全てに神が宿る（カムイ信仰）とされ、自然と人間の共存が基本的な考え方となっています。

函館や小樽などの歴史情緒のある町並みを評価する人も少なくありません。例示すると、（函館の世界観について）「今住んでる地域の中には無い文化が存在している。観光地でもあるがそれなりの歴史も楽しい。港と観光地が存在している地域は珍しいのかな」といった回答です。筆者も、釧根地域で観光の経済効果調査に携わった経験がありますが、港毎に漁種の多様性や、港町の歴史と趣きを感じるという点が道東地域の醍醐味のように思います。

## ③京都府 ～ 「歴史との共存」

「日本の文化が凝縮されている」「世界に誇る日本のよさを余すところ無く伝えている」「改めて日本人だと実感できる場所」「都心では感じられない、奥ゆかしさというか、たおやかさといったものを感じる事ができた」といった回答に古都としての面目が躍如しています。

加えて、京都の人々の「歴史との共存」に触れた回答が大変多くなっているのが特徴です。回答例を挙げると、「歴史のある街がごくふつうに現代にシフトし適応しているところ」「個々の家は、町並みや景観を乱さないように家の造りを工夫している。例えば、エアコンの室外機はさりげなく竹や板で囲ってあらわにならないようにした気配り」などがあります。また、「伝統を誇りに思っている」「観光客に媚びない、ほっておいてくれるところ。それで居ていごちの良さを感じる」「敷居の高いお商売柄なのか人との触れ合いこそ京都では求めませんが、意地悪で品性のある文化を感じます」といった、京都人の誇り高さやクールな気質も独特の世界観を形成しているようです。この他、個別の素材として、路地裏、町屋カフェ、先斗町の舞妓さん、川床料理、紅葉や桜、庭園、西陣織などを象徴的に取り上げた回答がみられました。

## 5. 一番良かった宿泊施設にあてはまる特徴

今までに宿泊した施設の中で一番良い印象をもたれた宿泊施設について自由回答（想起方式）で聞きました。その上で、20の選択肢からその宿泊施設によく当てはまる特徴を選んでもらっています。

### 1) 一番良い印象をもった宿泊施設 ～ 回答が分散。1位は加賀屋。

オピニオンリーダー892名の一番良い印象の宿泊施設を集計してみたところ、1票のみという施設が非常に多くなりました（半数以上）※。我が国には2005年現在で旅館が約5万6千軒、ホテルが約9千軒、全国に点在していますので（厚生労働省資料より）、回答が分散するのはむしろ自然な結果と言えます。参考までに上位10施設を表に示していますが、1位でも19票に留まっています。

1位は「加賀屋」で、性別では女性層、年代では60代以上から回答を集めました。なお、「加賀屋」は「今一番泊まりたい宿」の質問でも1位になっています（今回は結果を公開していません）。2位はホテルで最も多くの回答を集めた「帝国ホテル」、これに「ホテルミラコスタ」「ブセナテラス」が続きます。5位の「あかん遊久の里鶴雅」は、旅館としては2番目になっています。

今まで宿泊した中で一番良い印象をもった国内の宿泊施設	オピニオンリーダー層
1 加賀屋	19
2 帝国ホテル	12
3 ホテルミラコスタ	11
4 ブセナテラス	10
5 あかん遊久の里鶴雅	9
6 リッツカールトン大阪	8
7 ザ・ウインザーホテル洞爺リゾート&スパ	6
7 富士屋ホテル	6
9 ホテル日航アリビラ	5
9 ホテルグランパシフィックメリアン	5

※集計結果の留意点として、「宿泊した」施設から選んでもらっていることから比較的大規模な施設や歴史ある施設が選ばれやすいこと、半数弱の人が「観光に便利であれば宿泊施設にはこだわらなかった」ことから、宿泊施設に関するオピニオンリーダー層だけが抽出されたわけではないといった点があります。また、「湯布院のどこか」「沖縄のリゾートホテル」といった宿泊地としてのブランド力の高い地域名を書く人、「リッツカールトン」「シェラトン」といったホテルチェーンの名称を書く人も少なくありません。こうした回答は集計から除外しています。

### 2) 良い宿泊施設に当てはまる特徴 ～ 「過剰でないタイミングの良いサービス」

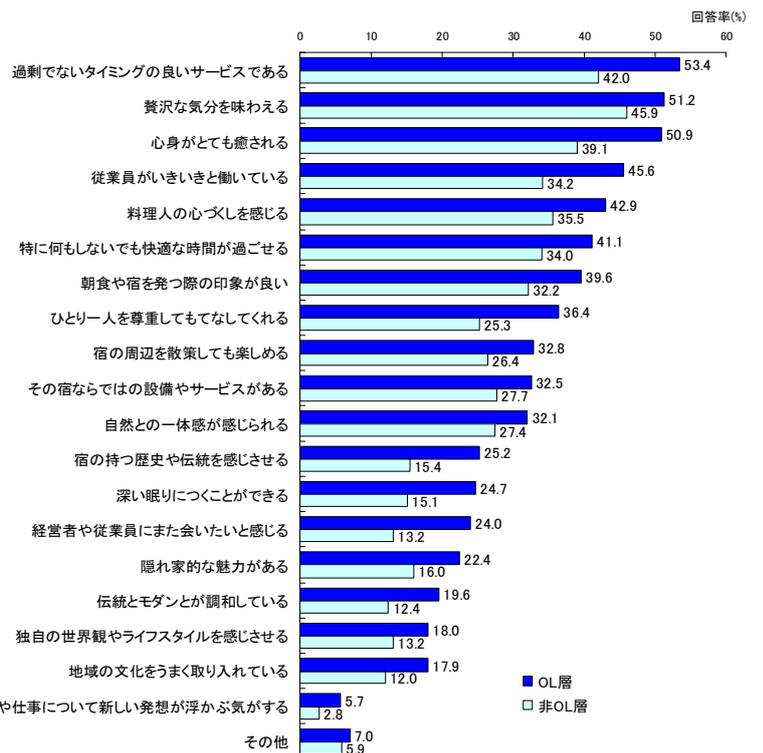
宿泊施設の特徴について20の項目を挙げて、一番良い印象の施設に当てはまるものを選んでもらいました。

オピニオンリーダー層では、①「過剰でないタイミングの良いサービス」が53.4%でトップとなっています。現場における顧客への気配りと、適度な距離感を両立させる仕組み作りが、生産性を高めていく上で肝要と言えるでしょう。

以下、②「贅沢な気分を味わえる」51.2%、③「心身がとても癒される」50.9%、④「従業員がいきいきと働いている」45.6%、⑤「料理人の心づくしを感じる」42.9%、⑥「特に何もしないでも快適な時間が過ごせる」41.1%、⑦「朝食や宿を発つ際の印象が良い」39.6%、⑧「ひとり一人を尊重してもてなしてくれる」36.4%などが続いています。

オピニオンリーダー層では、非オピニオン

OL層・非OL層×これまでで一番良い印象だった宿泊施設に当てはまるもの



リーダー層を比べて各項目とも回答率が高くなっています。特に差が比較的大きい項目は、「過剰でないタイミングの良いサービス」「従業員がいきいきと働いている」「ひとり一人を尊重してもてなしてくれる」「宿の持つ歴史や伝統を感じる」「深い眠りにつくことができる」「経営者や従業員にまた会いたいと感じる」「伝統とモダンが調和している」などです。

幾つかの項目について、年代別に見た回答傾向についてご紹介したいと思います。

若年層をみると、20代の男女と30代女性では、「ひとり一人を尊重してもてなしてくれる」が高くなっています。また、20～30代女性では、「贅沢な気分を味わえる」も高く、高級感のある施設、折目正しくもてなしてくれる施設への憧れも感じられます。

一方で、20代男女では、「経営者や従業員にまた会いたいと感じる」の回答率も高くなっていて、旅館や民宿などの従業員とフラットなコミュニケーションをとることに居心地の良さも感じているようです。以前実施した沖縄のリピーターへのデプス・インタビューでも、ダイビングショップのインストラクターと日頃から友達感覚でメールのコミュニケーションを取っているという20代女性の例がありました。また、今回調査の中でも、「日常よりも旅先の方が人と自然なコミュニケーションがとれる」かを聞いた質問で、「当てはまる」が最も高かったのは20代です。日常のコミュニケーション環境と、旅先でのコミュニケーション欲求との関連性については、次回調査でもう少し詳しく聞く予定です。

40代は60代以上と並んで延べ回答率が658.9%と高く（約6.6個の特徴を選択）、こだわりの強い層と言えるでしょう。「過剰でないタイミングの良いサービス」「従業員がいきいきと働いている」「特に何もしいなくても快適な時間が過ごせる」「朝食や宿を発つ際の印象が良い」「深い眠りにつくことができる」「隠れ家的な魅力がある」など、客室での快適な滞在や、リラックスできる環境への欲求が強いようです。

50代は延べ回答率が583.7%と、最も少ない層になっています。比較的回答が多かった項目としては、「宿の周辺を散策して楽しめる」「宿の持つ歴史や伝統を感じる」があります。

60代以上は延べ回答率が665.5%と高く、退職後に宿泊施設に関する経験値が上がっている可能性もあります。回答率の高い項目は、「心身がととても癒される」「料理人の心づくしを感じる」「自然との一体感が感じられる」「ひとり一人を尊重してもてなしてくれる」「宿の周辺を散策して楽しめる」「宿の持つ歴史や伝統を感じさせる」「地域の文化をうまく取り入れている」などです。ぬくもりの感じられるサービスへの欲求や、地域の自然や歴史文化との親和性を高く評価する層となっています。

Q16.一番良い印象をもたれた宿泊施設について、よく当てはまると思うものを選んでください。(いくつでも)

		ひとり一人を尊重してもてなしてくれる	過剰でないタイミングの良いサービスである	朝食や宿を発つ際の印象が良い	従業員がいきいきと働いている	経営者や従業員にまた会いたいと感じる	料理人の心づくしを感じる	心身がととても癒される	贅沢な気分を味わえる	深い眠りにつくことができる	特に何もしいなくても快適な時間が過ごせる	自然との一体感が感じられる	地域の文化をうまく取り入れている	宿の持つ歴史や伝統を感じる	独自の世界観やライフスタイルが感じさせる	生活や仕事について新しい発想が浮かぶ気がする	伝統とモダンが調和している	隠れ家的な魅力がある	その宿ならではの設備やサービスがある	宿の周辺を散策して楽しめる	その他	合計(延べ回答数)
性別	1 男性	37.1	48.7	36.4	45.6	24.6	37.8	47.0	49.2	21.0	38.1	30.5	18.4	25.5	15.8	4.3	18.0	23.9	30.3	31.4	5.4	589.1
	2 女性	35.8	57.6	42.4	45.6	23.5	47.5	54.4	53.1	27.9	43.9	33.5	17.5	24.9	20.0	7.0	21.1	21.1	34.5	34.1	8.3	653.9
年代	1 20代	38.5	48.4	38.5	41.8	28.6	41.2	52.2	52.2	26.4	41.2	31.9	16.5	22.5	18.1	5.5	18.7	24.7	29.1	31.9	3.8	611.5
	2 30代	35.7	53.0	34.1	47.6	21.1	38.4	44.3	56.2	25.4	38.9	27.6	18.9	22.2	18.9	5.9	17.8	21.1	31.9	27.0	8.6	594.6
	3 40代	37.8	61.1	43.8	48.1	26.5	43.2	53.5	47.6	28.1	44.3	33.5	20.0	24.9	20.0	7.0	21.6	25.4	34.1	31.4	7.0	658.9
	4 50代	31.3	51.8	38.6	42.2	19.9	38.6	49.4	51.8	20.5	42.8	28.3	13.9	25.3	13.3	3.0	19.3	20.5	27.7	36.1	9.6	583.7
	5 60代以上	38.5	52.3	43.1	48.3	23.6	53.4	55.2	48.3	22.4	38.5	39.1	20.1	31.6	19.5	6.9	20.7	20.1	39.7	38.5	5.7	665.5
性年代	1 20代男性	38.8	41.3	31.3	36.3	28.8	32.5	46.3	42.5	22.5	27.5	27.5	17.5	18.8	13.8	6.3	13.8	23.8	22.5	26.3	6.3	523.8
	2 30代男性	31.5	43.8	36.0	50.6	19.1	37.1	40.4	59.6	24.7	38.2	24.7	18.0	25.8	14.6	4.5	23.6	23.6	32.6	24.7	2.2	575.3
	3 40代男性	38.6	56.8	35.2	42.0	28.4	34.1	50.0	45.5	23.9	42.0	34.1	21.6	29.5	18.2	4.5	18.2	33.0	28.4	28.4	3.4	615.9
	4 50代男性	37.5	51.3	40.0	51.3	26.3	37.5	48.8	55.0	17.5	47.5	28.8	17.5	26.3	15.0	3.8	17.5	23.8	28.8	40.0	7.5	621.3
	5 60代以上男性	39.5	50.0	39.5	47.7	20.9	47.7	50.0	43.0	16.3	34.9	37.2	17.4	26.7	17.4	2.3	16.3	15.1	38.4	38.4	8.1	607.0
	6 20代女性	38.2	53.9	44.1	46.1	28.4	48.0	56.9	59.8	29.4	52.0	35.3	15.7	25.5	21.6	4.9	22.5	25.5	34.3	36.3	2.0	680.4
	7 30代女性	39.6	61.5	32.3	44.8	22.9	39.6	47.9	53.1	26.0	39.6	30.2	19.8	18.8	22.9	7.3	12.5	18.8	31.3	29.2	14.6	612.5
	8 40代女性	37.1	64.9	51.5	53.6	24.7	51.5	56.7	49.5	32.0	46.4	33.0	18.6	20.6	21.6	9.3	24.7	18.6	39.2	34.0	10.3	697.9
	9 50代女性	25.6	52.3	37.2	33.7	14.0	39.5	50.0	48.8	23.3	38.4	27.9	10.5	24.4	11.6	2.3	20.9	17.4	26.7	32.6	11.6	548.8
	10 60代以上女性	37.5	54.5	46.6	48.9	26.1	59.1	60.2	53.4	28.4	42.0	40.9	22.7	36.4	21.6	11.4	25.0	25.0	40.9	38.6	3.4	722.7
OL層計	36.4	53.4	39.6	45.6	24.0	42.9	50.9	51.2	24.7	41.1	32.1	17.9	25.2	18.0	5.7	19.6	22.4	32.5	32.8	7.0	623.2	

### 3) トップ8の特徴

上位8施設について施設毎の特徴をみておきます。但し、標本数が少ない点にご留意願います。

先ず、オピニオンリーダー層平均と上位8施設の単純平均を比較してみますと、「贅沢な気分を味わえる」「特に何もしいでも快適な時間が過ごせる」「ひとり一人を尊重してもてなしてくれる」が8施設平均で回答率が3～4割程度以上高くなっています。この他、「過剰でないタイミングの良いサービスである」「従業員がいきいきと働いている」も1割程度高くなっています。

施設毎の特徴をみると、「過剰でないタイミングの良いサービスである」は「ブセナテラス」で90.0%と最も高くなっています。前述した旅行先のオススメ理由では、沖縄県の場合「もてなしの精神がある」の比率は必ずしも高くないのですが、適度な距離感を持った自然なコミュニケーションをとる能力に長けているのではないのでしょうか。これが「時間がゆっくり流れている」「居心地が良い」といった評価につながっているように思います。その上で、「ブセナテラス」に関しては、筆者もヒアリングさせて頂いたことがあります。接客マナーの向上に非常に力を入れている施設で、またハネムーンが多い施設として知られています。「特に何もしいでも快適な時間が過ごせる」も「ブセナテラス」が最も高くなっています。

「贅沢な気分を味わえる」は、ほとんどの施設で高いのですが、「ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ」は全員から高い評価を得ています。「富士屋ホテル」「ホテルミラコスタ」も8割を超えています。「ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ」は、「ひとり一人を尊重してもてなしてくれる」でも83.3%と最も高く、これに「リッツカールトン大阪」が次いでいます。いずれも、お客様の名前を覚えてくれるという点で評価が高い施設です。

「心身がとても癒される」については、「あかん遊久の里鶴雅」が77.8%でトップとなっています。温泉の効果も大きいと思いますが、(ヒアリングでお邪魔した際の印象ですが) 気取らない、宿を楽しむことに集中できる雰囲気を持つ施設となっています。30代の支持が多くなっています。

「従業員がいきいきと働いている」は、「ホテルミラコスタ」で90.9%と高くなっています。ディズニーホテルとして、ゲストを笑顔で迎えることが徹底されていることがこの評価につながっているのでしょうか。

「料理人の心づくしを感じる」は「あかん遊久の里鶴雅」が77.8%と最も高く、これに「ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ」が66.7%と次いでおり、北海道の食の魅力の高さを改めて感じさせてくれます。

表. 回答上位8施設に当てはまる特徴(オピニオンリーダー層全体の回答率順)

施設の特徴	加賀屋	帝国ホテル	ホテルミラコスタ	ブセナテラス	あかん遊久の里鶴雅	リッツカールトン大阪	ザ・ウィンザーホテル洞爺	富士屋ホテル	8施設の単純平均	OL層平均
過剰でないタイミングの良いサービスである	36.8	66.7	36.4	90.0	66.7	75.0	66.7	33.3	58.9	53.4
贅沢な気分を味わえる	78.9	50.0	81.8	70.0	77.8	50.0	100.0	83.3	74.0	51.2
心身がとても癒される	36.8	16.7	54.5	50.0	77.8	37.5	50.0	33.3	44.6	50.9
従業員がいきいきと働いている	47.4	25.0	90.9	70.0	66.7	25.0	50.0	33.3	51.0	45.6
料理人の心づくしを感じる	47.4	25.0	18.2	20.0	77.8	12.5	66.7	50.0	39.7	42.9
特に何もしいでも快適な時間が過ごせる	36.8	58.3	45.5	90.0	55.6	37.5	66.7	33.3	53.0	41.1
朝食や宿を発つ際の印象が良い	36.8	33.3	36.4	50.0	44.4	37.5	50.0	33.3	40.2	39.6
ひとり一人を尊重してもてなしてくれる	31.6	50.0	36.4	40.0	55.6	75.0	83.3	50.0	52.7	36.4
宿の周辺を散策しても楽しめる	15.8	16.7	18.2	30.0	44.4	0.0	16.7	66.7	26.1	32.8
その宿ならではの設備やサービスがある	52.6	41.7	63.6	40.0	22.2	12.5	50.0	0.0	35.3	32.5
自然との一体感が感じられる	0.0	0.0	0.0	40.0	33.3	12.5	50.0	16.7	19.1	32.1
宿の持つ歴史や伝統を感じさせる	63.2	41.7	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	66.7	22.8	25.2
深い眠りにつくことができる	21.1	33.3	27.3	20.0	22.2	25.0	50.0	16.7	26.9	24.7
経営者や従業員にまた会いたいと感じる	21.1	16.7	36.4	20.0	11.1	37.5	16.7	33.3	24.1	24.0
隠れ家的な魅力がある	5.3	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	2.0	22.4
伝統とモダンとが調和している	47.4	25.0	0.0	20.0	33.3	0.0	0.0	83.3	26.1	19.6
独自の世界観やライフスタイルを感じさせる	26.3	8.3	45.5	10.0	22.2	12.5	33.3	50.0	26.0	18.0
地域の文化をうまく取り入れている	15.8	0.0	0.0	40.0	11.1	12.5	0.0	0.0	9.9	17.9
生活や仕事について新しい発想が浮かぶ気がする	10.5	8.3	0.0	10.0	22.2	12.5	0.0	0.0	7.9	5.7
その他	0.0	8.3	18.2	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	7.5	7.0
MT	631.6	525.0	609.1	710.0	766.7	475.0	766.7	700.0	648.0	623.2

■ 80%以上 ■ 60-80% ■ 40-60%

「朝食や宿を発つ際の印象が良い」は、「ブセナテラス」「ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ」が各 50.0%と高く、「宿の周辺を散策しても楽しめる」は「富士屋ホテル」66.7%、次いで「あかん遊久の里鶴雅」44.4%が高く、「その宿ならではの設備やサービスがある」は「ホテルミラコスタ」63.6%、次いで「加賀屋」52.6%が高くなっています。

「宿の持つ歴史や伝統を感じさせる」は「富士屋ホテル」66.7%、「加賀屋」63.2%が高くなっています。「富士屋ホテル」は、「伝統とモダンとが調和している」「独自の世界観やライフスタイルを感じさせる」でも高くなっています。「自然との一体感が感じられる」は「ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ」で高くなっています。

## 6. 海外旅行経験が変えた国内旅行観

### 1) オピニオンリーダー層の海外旅行経験 ～ 経験率は約9割

オピニオンリーダー層に海外旅行経験について尋ねたところ、89.8%の人が海外旅行を経験していることがわかりました。年代別にみて最も低い20代でも85.7%に上っています。

また、方面別の経験率は、「東アジア（韓国、香港、マカオ、中国、台湾）」が81.5%、「ハワイ・グアム・サイパン」が72.3%、「東南アジア（タイ、シンガポール、バリなど）」が65.5%、「ヨーロッパ」65.1%、「北米」56.4%、「オセアニア」43.5%の順になっています。方面別にみても豊富な旅行経験を持っている人が多くなっています。

### 2) 国内旅行観の変化 ～ ポジティブな変化が目立つ。

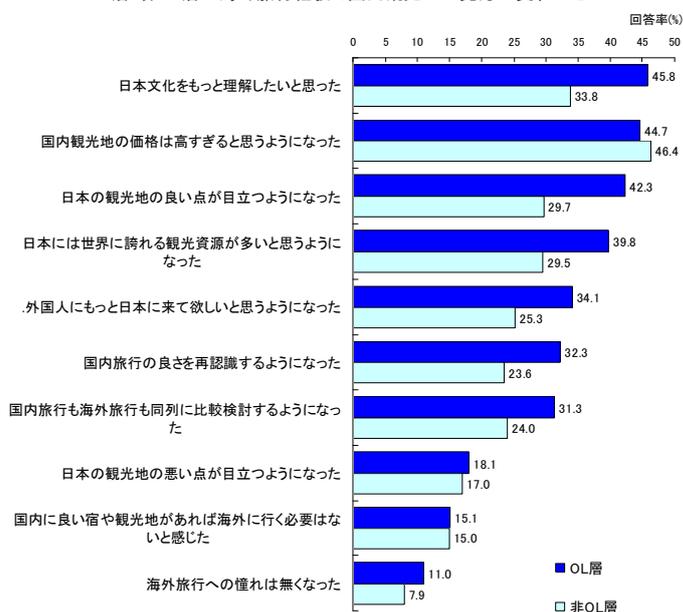
海外旅行を経験している約9割の人々に、海外旅行を経験したことで国内旅行への見方（10項目）がどう変わったかについて、「当てはまる」「やや当てはまる」「当てはまらない」の3段階で聞きました。次の図は、そのうち「当てはまる」と回答した人の比率をオピニオンリーダー層と非オピニオンリーダー層についてみたものです。

オピニオンリーダー層では、①「日本文化をもっと理解したいと思った」45.8%、③「日本の観光地の良い点が目立つようになった」42.3%、④「日本には世界に誇れる観光資源が多いと思うようになった」42.3%、④「日本には世界に誇れる観光資源が多いと思うように

OL層・非OL層×海外旅行経験で国内観光への見方が変わったか

Q26.海外旅行経験率と方面別経験率

		あなたは海外旅行に行ったことがあるか	1.東アジア(韓国、香港、マカオ、中国、台湾)	2.東南アジア(タイ、シンガポール、バリなど)	3.ハワイ・グアム・サイパン	4.オセアニア	5.北米	6.ヨーロッパ	7.その他
性別	1 男性	88.9	81.8	64.8	69.5	42.1	59.6	62.6	36.4
	2 女性	90.6	81.2	66.1	74.8	44.8	53.5	67.4	36.0
年代	1 20代	85.7	74.2	57.7	61.5	36.8	50.5	56.6	34.1
	2 30代	89.2	78.4	68.1	68.1	40.0	51.9	61.1	33.0
	3 40代	93.5	81.1	61.6	80.5	46.5	58.9	65.4	34.1
	4 50代	91.6	86.1	70.5	76.5	42.8	54.2	63.9	35.5
	5 60代以上	89.1	88.5	70.1	75.3	51.7	66.7	79.3	44.8
性年代	1 20代男性	81.3	76.3	56.3	58.8	40.0	56.3	56.3	42.5
	2 30代男性	85.4	78.7	66.3	62.9	36.0	56.2	58.4	30.3
	3 40代男性	94.3	76.1	58.0	76.1	39.8	56.8	63.6	30.7
	4 50代男性	93.8	87.5	73.8	78.8	40.0	56.3	55.0	36.3
	5 60代以上男性	89.5	90.7	69.8	70.9	54.7	72.1	79.1	43.0
	6 20代女性	89.2	72.5	58.8	63.7	34.3	46.1	56.9	27.5
	7 30代女性	92.7	78.1	69.8	72.9	43.8	47.9	63.5	35.4
	8 40代女性	92.8	85.6	64.9	84.5	52.6	60.8	67.0	37.1
	9 50代女性	89.5	84.9	67.4	74.4	45.3	52.3	72.1	34.9
	10 60代以上女性	88.6	86.4	70.5	79.5	48.9	61.4	79.5	46.6
OL層計		89.8	81.5	65.5	72.3	43.5	56.4	65.1	36.2



なった」39.8%、⑤「外国人にもっと日本に来て欲しいと思うようになった」32.3%、⑥「国内旅行の良さを再認識するようになった」32.3%、⑦「国内旅行も海外旅行も同列に比較するようになった」31.3%など、比較的ポジティブな変化が非オピニオンリーダー層に比べて多くみられるようです。

但し、②「国内観光地の価格は高すぎると思うようになった」44.7%は、非オピニオンリーダー層の48.4%に比べると低いものの、高い回答率になっています。また、⑨「国内に良い宿や観光地があれば海外に行く必要はないと感じた」は15.1%、⑩「海外旅行への憧れは無くなった」は11.0%に留まっていて、国内旅行のオピニオンリーダー層は、海外旅行への関心を失っていないことがわかります。

幾つかの項目について年代別の回答特性をみてみましょう。

20代の人達では、日本の観光地の「良い点」についても「悪い点」についても「目立つようになった」という回答率が最も高くなっています。また、「日本文化をもっと理解したい」が45.1%、「外国人にもっと日本に来て欲しい」が34.6%と最も高くなっています。感性の豊かなこの世代が海外旅行を経験することで、日本への理解や、国際交流への理解が深まるといった効果が期待されます。

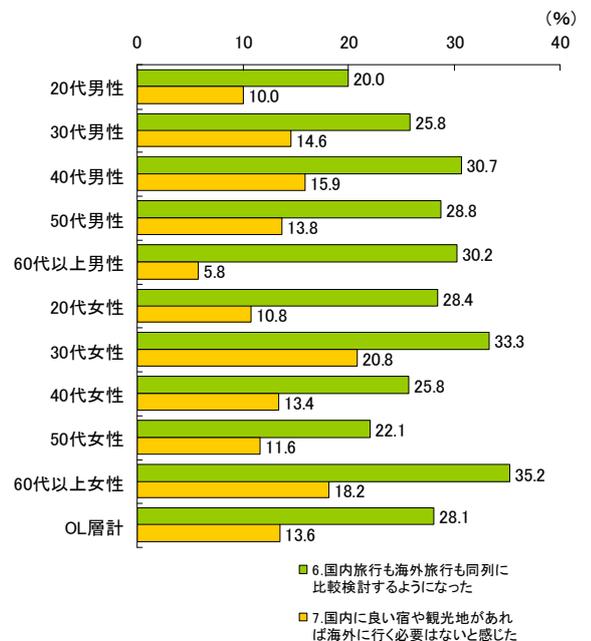
30代から40代にかけては、「国内旅行の良さを再認識」という回答が比較的高くなっています。

また、30代、60代の女性と40代男性では、「国内に良い宿や観光地があれば海外に行く必要がない」「国内旅行も海外旅行も同列に比較するようになった」が同性の他の世代に比べ高くなっていますが、この層は宿泊施設での滞在時間を重視する層とも重なっています。こうした層が今一番宿泊したいと回答している宿泊施設では、ホテル、旅館ともにある程度グレードが高く、施設規模が大きく、滞在メニューの充実した施設が多く選ばれる傾向があります。

60代女性では、「日本には世界に誇れる観光資源が多いと思うようになった」「日本文化をもっと理解したい」も高くなっています。この層が世界遺産や京都ブームなどのムーブメントにおいて大きな役割を果たしていると言えそうです。

Q27.海外旅行を経験されたことで、国内観光についての考え方は変わりましたか。(当てはまるの比率)

	1.日本の観光地の良い点が目立つようになった	2.日本の観光地の悪い点が目立つようになった	3.日本文化をもっと理解したい	4.日本には世界に誇れる観光資源が多いと思うようになった	5.国内観光地の価格は高すぎると思うようになった	6.国内旅行も海外旅行も同列に比較検討するようになった	7.国内に良い宿や観光地があれば海外に行く必要はないと感じた	8.国内旅行の良さを再認識した	9.海外旅行への憧れは無くなった	10.外国人にもっと日本に来て欲しい			
性別	1 男性 39.0	2 女性 37.1	17.7	14.9	35.9	45.8	37.1	39.7	29.0	14.9	29.9	10.2	31.6
年代	1 20代 45.1	2 30代 38.9	19.2	17.8	45.1	40.5	33.5	36.8	29.7	17.8	29.7	10.3	27.0
	3 40代 34.6	4 50代 37.3	14.1	13.3	40.5	36.1	36.7	47.6	25.3	12.7	24.1	9.0	31.9
	5 60代以上 33.9		16.7	43.1	42.0	50.0	32.8	12.1	29.3	12.6	32.8		
性年代	1 20代男性 43.8	2 30代男性 34.8	22.5	18.0	35.0	32.5	25.0	20.0	10.0	25.0	7.5	35.0	
	3 40代男性 40.9	4 50代男性 42.5	18.2	16.3	37.5	36.4	30.7	15.9	31.8	14.8	27.3		
	5 60代以上男性 33.7		14.0	32.6	37.2	52.3	30.2	5.8	27.9	5.8	29.1		
	6 20代女性 46.1	7 30代女性 42.7	16.7	10.3	52.9	36.3	30.4	28.4	10.8	34.3	4.9	34.3	
	8 40代女性 28.9	9 50代女性 32.6	10.3	10.5	43.3	28.9	42.3	25.8	13.4	30.9	8.2	26.8	
	10 60代以上女性 34.1		19.3	53.4	46.6	47.7	35.2	18.2	30.7	19.3	36.4		
OL層計	38.0	16.3	41.1	35.8	40.1	28.1	13.6	29.0	9.9	30.6			



参考表. 感じられた世界観やライフスタイルについての自由回答（上位都道府県より抜粋）

観光地	感じられた世界観やライフスタイル	年代	性別	居住地
<b>（沖縄県）</b>				
沖縄	まるで日本ではないような南国のゆったりした雰囲気。皆が焦って生活していない。	20代	女	大分
沖縄	本土とは違う、ゆったりとした時間の流れを感じた。自然の美しさや海の透明感にも感動したし、独特で様々な種類の沖縄料理もとても美味しかった。一方で、避けては通れない沖縄の歴史にも、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えさせられた。	20代	女	山口
沖縄	独特な表現、郷土料理などが残っており、守り、受け継いでいこうという姿勢が日常にあふれていること。銭湯の作りが変わっているが、地元の人たちはそれが普通だと笑いながら利用しているところなど。	20代	女	山形
沖縄	自然や人や音楽を愛して、ゆっくりと時間が流れるライフスタイル。	20代	男	岐阜
沖縄	琉球文化が今でも根強く残り、食事にしても、家屋・建築物にしても、海の色にしても、本土とは異なっていると感じた。	20代	男	岡山
沖縄	本州には無い建築様式の建物や、歴史観があること。	20代	男	北海道
沖縄	特に田舎に行くとき見知らぬ人にも声をかける優しさがある。また、先祖を神として畏敬の念を抱く精神、家族、お年寄りを大事にするのが良いと思った。	20代	女	東京
沖縄	小さな島なのにとってもおほらかなさを感じた。ただ、地元の人と話すときの生活の中の苦しさや葛藤（政治的・経済的なもの）が根深い土地であることがわかり、その問題も沖縄特有のものだと思った。	20代	女	北海道
沖縄	琉球王国時代の独自の文化が発達しており、異国情緒があふれている。また、おもてなしの精神が浸透しているのか、地域の人もとても親切で優しい。	30代	女	滋賀
沖縄	やはり島なので、本島とは違う趣きや空気がありました。住んでいる人たちもんびりしているし、自分まで気持ちやゆったりしていることに気づき、いいことだと思いました。	30代	女	三重
沖縄	のんびりしている。陽気な人が多く、毎日が宴会のようなイメージ。	30代	男	埼玉
沖縄	本土とは違う価値観に基づく時間の流れ方がしていると感じた。	30代	男	神奈川
沖縄	ゆっくりと流れる時間や、歴史の違いからくる景観や独特の雰囲気。ゆるさの中に強さを秘めている感じがした。	30代	女	東京
沖縄	小さな島の中に沢山の歴史や独特のライフスタイルが詰まっています非常に興味深い。	30代	男	神奈川
沖縄	本土とは違う、ゆったりとした時間が流れている。スローフード・スローライフな暮らしが昔から身に付いたライフスタイルに癒される。	30代	女	石川
沖縄	チャンプルー文化で、来るもの拒まず的なところ。	30代	女	沖縄
沖縄	沖縄独特の文化と食があり、ゆったりとした生活感、世界に誇れる海と風景がある。	40代	男	東京
沖縄	時間がゆっくり流れている。夜食事に行くと地元の人や家族や友人と来ていて横のつながりも強いと感じた。生活用品も本土では見えないような独特の物がたくさんあり、日本だけ日本じゃないような感じがした。	40代	女	愛知
沖縄	日本がアジアであることを再確認させてくれる。	40代	男	長野
沖縄	時間がゆったり流れている。寛容でおおらかな県民性。	40代	男	大阪
沖縄	日本であって日本ではない、独自の文化を感じる。	40代	男	愛知
沖縄	独自の文化、時間観の概念があり、家族や親類の大切さなどが感じられた。	50代	男	東京
沖縄	自然や外国との共生。食文化。新しいものと伝統との渾然一体。時間がゆっくりと過ぎてゆく。独自の歴史と文化。音楽。広い意味で東南アジアと一体である。	50代	男	北海道
沖縄	沖縄は大陸・本土の影響を受けた琉球王国の文化が色濃く残る。戦中・戦後の歴史の中から独自の世界観があるように感じられる。	50代	男	奈良
沖縄	第二次世界大戦の傷跡の深さ。米国の支配下にあったことで、現在もたくさんの基地があり、よきに付け、悪しきにつけ、深い影響を受けている。	50代	女	神奈川
沖縄	現地の人達と話し、その歴史や現在の状況から沖縄独自の世界観を感じた。また、安易に現代のライフスタイルを取り入れず、守るべき伝統はきちんと守っていかうとするスタンスがある。	60代	女	静岡
沖縄	熱帯性気候の中で自然と調和して暮らす知恵が随所にみられた。	60代	男	東京
沖縄	過去の苦しさを乗り越えて生きる強い心の持ち主が多く、プラス思考の生き方に共鳴した。	60代	男	兵庫
沖縄県の世界遺産	沖縄のこころを残そうとする心意気がある。	60代	女	長野
那覇	中国文化と日本文化と米軍基地のアメリカ文化の混ざり合ったようなライフスタイル。	20代	男	北海道
久高島	観光客を受けて入れてはくれるけれど、島の自然や生活をきちんと守っている。その深いライフスタイルに感銘を受けた。	30代	女	福岡
栗国島	地域のコミュニティ間でのつながりの強さ。時間がのんびり流れて行く。	20代	男	茨城
宮古島	小さな島の限定された地域での結束力と、活力が見られた。	50代	男	京都
八重山諸島	気候風土に基づいて育まれた琉球文化を大切に守っている人々の素朴で純粋な心。	50代	男	大阪
沖縄・石垣島	良い意味でまったく日本ではない、本土では味わえない民族性と自然がある。	50代	男	静岡
石垣島周辺	日本の文化とどこか異質で、それでいて懐かしさを感じられる。	40代	男	千葉
竹富島	全ての家の屋根瓦が統一されていて、舗装された道路も少なく自然にあふれているところが異国に来ている気分だった。	20代	女	埼玉
竹富島	観光客を寄せつけない地区もあり神秘的。	30代	男	北海道
西表島	自然に触れた中での生活や、本土では味わえない自然環境。	50代	女	大阪
西表島	時間の流れが止まったような居心地の良さがある。	50代	女	大阪
<b>（北海道）</b>				
北海道	雄大な自然に囲まれ、おおらかな人たちに迎えられた。	20代	男	京都
北海道	時間がゆっくり流れるライフスタイル。	40代	男	秋田
北海道	時間の流れやリズムが異なる。北海道独特の生活習慣がある。	40代	男	大阪
北海道	アイヌ文化を大切にしつつ、観光に特化したサービスの数々がある。	40代	男	熊本
北海道	100キロぐらい離れていても、「近い」ところと認識する力がある。	50代	男	岐阜
北海道全地域	自然の素晴らしさには感嘆。また、自然もさることながら人々のおおらかな共存・共栄の精神が垣間見える。すべてを受け入れるという難しさがここでは自然も人間も普通に行えている。地方の人々の素朴さは昔の人の謙虚さや素直さを思い出させる力がある。	50代	女	千葉
北海道	自然の雄大さ大地と共に生きている地元の方々の力。	60代	女	兵庫
北海道	大自然の中で生活している人たちの逞しさや優しさ。	60代	女	三重
北海道全般	ゆったりとした気持ちになれる場所。	60代	女	千葉
北海道の岬	厳しい季節の中から生まれた美しい自然は、時間が止まってしまった様である。	40代	女	埼玉
北海道東部	集落のない広さを感じる空間がある。	60代	男	神奈川
知床	人間が必要以上に立ち入っていないところや、自然がそのまま維持されていて、動物にも会える。大自然とおいしい空気がごちそうである。	40代	女	大阪
知床	自然を大事にすること、動物との共生を目指していること、景観を大事にしているところ。	50代	男	東京
知床世界遺産	そぼ降る小雨に霞んだ景観が、水墨画の世界に迷い込んだかのようにであった。	70代	男	岐阜
トドワラ	自然の中の神秘と壮大さに、時間の流れも現実も感じられなくなった事を伝えたい。	70代	女	栃木
釧路湿原	自然の荘厳さと雄大さに圧倒された。	40代	女	北海道
富良野	自然の中で四季をおもいっきり五感で感じることができる。普通の生活では味わえない、自然を全身で感じることができる。	30代	女	静岡
ニセコ	地域を生かした、ラフティングやアウトドアスポーツが多い。	40代	女	北海道
キロロリゾート	スポーツと一体化したライフスタイル。	40代	男	大阪
奥尻島	精神的にゆっくりしていて、1度行くと“自分が生きているなあ”という感じがある。	20代	女	兵庫
函館	歴史を感じる。時間が止まったような感覚がある。言葉では言い表せない懐かしさを感じる。	30代	男	福岡
函館	街全体に落ち着きを感じる。	30代	男	神奈川

観光地	感じられた世界観やライフスタイル	年代	性別	居住地
<b>(京都)</b>				
京都	伝統的な生活、自然、文化を大切に保ちながらも、現代的な社会的機能も備えている点。	20代	男	大阪
京都	都心では感じられない、奥ゆかさというか、たおやかさといったものを感じることができた。独特の雰囲気があると思う。	20代	男	愛知
京都	歴史と伝統と文化、ゆるやかに流れる時間。新しいものの中にある、昔から変わらないものへの安心感や懐かしさ。	20代	女	宮城
京都	関東にはない街並みやそこで生活している人たちの動き、歴史的建造物やその街並みを保護するために行われている取り組みに、ただ古いものを壊して新しいものを造ればよいといった考え方を街自体が「そうではない」と言っている気がした。	20代	男	神奈川
京都	伝統を大切にしながら地域すべてが観光のために日々成長、変化しているところに独特の世界観を感じた。またお寺などはやはり世界遺産だけあって見ごたえがある。	20代	女	奈良
京都	歴史的建造物を大切に、街並みを守るための景観規制があり、逆境的な建物をも逆手に取ったように、楽しんでる点。	30代	女	静岡
京都	ちょっとした生活感のある裏道にも、日本の伝統文化が息づいている。	30代	男	千葉
京都	地域全体が観光地として歴史がある。歴史を後世に伝えていくという使命を担っているという誇りを感じる。	30代	女	福岡
京都	古都の名の通り、独特の文化、風情が多く残されている。	30代	男	神奈川
京都	とても趣があり、伝統を感じた。お茶、建物、自然の美しさ、人の温かさを感じ、とてもホッとできるところである。	40代	女	茨城
京都	古くから根付いている伝統を守りつつ、現代生活とのマッチングを上手に行なっている。	40代	女	東京
京都	最先端を追いながらも古きを重んじる雰囲気がある。	40代	男	京都
京都	時間が逆行したような、落ち着きと懐かしさがある。	40代	女	佐賀
京都	観光客に媚びず、放っておいてくれるところ。それで居て、居心地の良さを感じる。	50代	女	長野
京都	歴史的な建造物を後世に残すための努力・工夫や京都に生きる精神的なライフスタイル。	60代	女	埼玉
京都	個々の家が町並みや景観を乱さないように家の造りを工夫している。例えば、エアコンの室外機はさりげなく竹や板で囲ってあったり、家の前の道路に打ち水をしたり、町屋の玄関先には季節の植物の植木鉢がおかれていたり、道行く人を居心地よくさせるさりげない配慮がある。日本人の伝統的なしきたり、習慣、文化が色濃く残っていることを感じさせる。	60代	女	神奈川
京都	世界の人が、違和感なくくつろげるような環境がよい。	60代	男	北海道
京都	古都の美しさを頑なに守り保存して、その中に溶け込み生活する姿が素晴らしい。	70代	男	広島
京都	府庁所在地としての大都市の感じもあるが、同時に、古くからの寺社や、桜・紅葉などに代表される自然景観を守っていくとする人たちが大勢いることを感じさせられた。	70代	男	東京
嵐山	山の色彩、夕方に行くと木々の葉がさらに綺麗に赤く染まり、なんとも言えぬ美しさだった。すごく幻想的な地域。	20代	女	奈良
<b>(岐阜)</b>				
岐阜	以前のままの生活を残している。交通が非常に不便だが、それが逆に趣とリラックスさせる効果を出している。	20代	女	大阪
飛騨白川郷	豪雪地帯にありながら、雪(自然)と共生する知恵。	40代	男	東京
白川郷	地域の人々の協力を経て合掌造りを継承しているという。言うのは簡単でも実際に行うのは難しい。伝統を守り続けているというもの。	20代	女	奈良
白川郷	伝統を重んじ、守っていく。自然との調い。	20代	女	東京
白川郷	離れた、里町で、地域が一体となって、郷を守るという姿勢がある。	30代	女	栃木
白川郷	豪雪地帯ならではの独特の建築物。	30代	男	大阪
白川郷	日本の原風景。	40代	男	宮城
白川郷	昔ながらの物を大事に今も使っている。工夫している。作られたのではない風景がある。	40代	女	広島
白川郷	伝統の中にも礼儀正しさと奥ゆかしさを感じた。	50代	男	神奈川
白川郷	近代生活の中にあって、古来からの気候・風土に適した建築様式を守っている集落であること。	50代	女	愛知
白川郷	世界遺産となったことで、観光者であふれているが、地元住民の環境維持の姿勢が強く感じられる。	50代	女	京都
白川郷	合掌造りに、今も普段の生活があること。	50代	女	茨城
白川郷	日本の古いなつかしい昔の生活や住んでいる人の素朴さ。	60代	男	愛知
白川郷	伝統工芸がそのまま残っている。都市にはない、昔の空間が懐かしい。	60代	男	福岡
白川合掌村	自然の厳しさに果敢に立ち向かう人間の強さ、賢さ。	50代	女	三重
飛騨高山	古き日本の雪国のおい。	20代	女	愛知
飛騨高山	静寂と時が止まったかのような凛としたたずまいを感じた。世間がどう変わろうともこの場所だけはこのままであってほしいと思った。	20代	女	東京
飛騨高山	観光施設の整備や道路等のインフラ整備に関して、市全体で町の風情を壊さないように発展しようとしているように感じる。また、伝統を壊さずに新しい物に変化していくように感じている。	40代	男	静岡
飛騨高山	一昔前の子供の頃を思い出す。懐かしさを感じ、時間の流れのゆったりさを感じられる。	50代	女	兵庫
高山	自然環境と温泉との調和が素晴らしい。	70代	男	静岡
<b>(大分)</b>				
湯布院	自然にあまり手を加えずに、自然と共存するような街作りや生活をしているように感じた。	20代	男	埼玉
湯布院	現代から取り残されたような風情と町の人たちの心温まるもてなしがある。	30代	男	大阪
湯布院	自然の風景と文化を大切にしていると感じられた。	40代	男	大阪
湯布院	良い意味ですべてが観光地化されている。街並みや食事処などセンスが感じられ、旅行者を楽しませるトピックスが沢山あふれている。	40代	女	大阪
湯布院	温泉で非日常的な時間が流れるが、ちょっと街中にいと、ショッピングや散策が観光地らしく楽しめる、相対する街となっている。	40代	女	宮崎
湯布院	観光地としてのこだわり。映画館が無いのに「湯布院映画祭」を30年ぐらい続けている。	50代	女	広島
湯布院温泉	訪問者を楽しませようとする地域の人たちの取り組みと地域が元々持っている恵まれた自然	50代	女	福岡
湯布院	町全体でカルチャーを作っている	60代	男	東京
湯布院	地元振興と客のニーズが合致している。	60代	男	京都
湯布院	ゆったりとした時の流れと街のもてなしの心を感じられる。	40代	男	東京
別府温泉	生活の中に共同温泉がある。	50代	男	茨城
別府	温泉の湯煙が壮大である。	60代	女	東京
臼杵	地域の歴史を大切にして、あるものをあるがまま。それをさらに整備したに人々の姿勢。とても清潔なまち。	20代	女	東京
日田・柳川	古い日本情緒が残っている。	50代	女	鹿児島
久住高原	ゆっくり時間が流れていて、時間にコントロールされない生活の大切さに気づきました。	60代	女	福岡
<b>(鹿児島)</b>				
屋久島	自然の大きさや、地球の息吹を感じた。また、自分がその地球の一部であることを感じる事ができた。	20代	男	福岡
屋久島	雄大な自然とそれを守る人々の熱意。	20代	男	東京
屋久島	その場所にいるだけで癒され、リフレッシュできる。こんな場所は他にはないと思います。	30代	女	滋賀
屋久島	その土地が生きていく為の基本がしっかりしている。	30代	女	兵庫
屋久島	世界遺産の屋久杉はさることながら、自然と人間が共存していると実感できる。海亀や猿も、自分たちの世界で生きていと感じました。	40代	男	静岡
屋久島	今はかなり人の手が入って整備されているようですが、縄文村に出会ったあの瞬間は日常を忘れさせてくれる偉大な何かがありました。	50代	女	大阪
屋久島	人間より、猿や鹿のほうが多い。	50代	女	福岡
屋久島	自然に包まれた島の生活。	50代	男	愛知
屋久島	「自然がいっぱい」という気分と何千年もの永い年月を見ることが出来る。	60代	女	神奈川
屋久島	自然の素晴らしさ。	70代	男	大阪
指宿知林ヶ島	大自然なのは勿論、夏の60日間だけ。それも昼2~3時間だけ。海が割れて道となり島まで歩いて渡れる。徒歩30分間、夢をみているような、豊かな気持ちにさせてくれる。	50代	女	東京
奄美大島	人がいい。地域産業の体験や(藍染、泥染め等)食事・特にホテルの朝食がとても美味しかった。海が市街地でも美しく、散歩していても気持ちよかった。	60代	女	新潟

旅行者モニター調査

観光地	感じられた世界観やライフスタイル	年代	性別	居住地
<b>(長野)</b>				
上高地	滞在した上高地帝国ホテルは、雪に閉ざされてしまうため冬季は閉館となり、自然環境の保護の厳しい立地条件であるため、ごみ削減のため、使用した室内のアメニティの持ち帰りを勧めているなどの説明を受けた。また周囲の環境も、気温が低く冷水であるため、落ち葉でさえ腐敗しにくいと聞き、寒冷地の厳しさに対応する生活について考えさせられた。	30代	女	長崎
上高地	アルプスの山が神々しくそびえ、普段あまり山に興味の無い人も山に興味を持つようになる。	30代	男	愛知
上高地	期間限定で開山し、自家用車の乗り入れが禁止である為、自然が保護されると共に気軽に立ち寄ることが出来ない点に独自のライフスタイルを感じた。	40代	男	東京
上高地	30年間で10回訪れ、徐々にではあるが変わりゆく景観(大正池や遊歩道の設置など)と変わらぬ景観(河童橋周辺から伺える山々の姿)がある。早朝の霧につつまれた大正池のなんと幻想的なこと！真夏に観る蒼く澄んだ空に映える雄々しいばかりの山々は、まさに感銘ものです！河童橋近くの宿をとり、梓川の清い流れを観ているだけで癒される感があります。マイカーを通年閉め出して以降、特に上高地の中に泊まるようになりました。国内では、心から自然に体を委ねられる、残り少ない空間(観光地)のひとつだと思います。	50代	男	千葉
上高地	国内有数の山岳観光地の自然を守ることと観光客誘致の融合。	50代	男	東京
上高地	自然環境を守りながら観光地となっており大変すばらしい。	50代	男	京都
上高地	自然の中にどっぷりとつかると、とても心地よくいつまでも居たい気分になります。	60代	女	高知
野沢温泉	暗黙のルールから外れると憲法違反レベルの村八分にされる。	20代	男	埼玉
野沢温泉村	昔ながらの共同体が維持されており、その様子を道祖神祭りや外湯の管理などで見ることができる。	20代	男	静岡
野沢温泉	麻釜を住民が生活に密着させて利用しているから。	60代	女	東京
木曾	山間地の暮らしと街道の歴史。	50代	女	滋賀
木曾福島	山間の昔暮らしが残っており、伝統的な賑りをみんなと触れ合う事が出来るように紹介したりしている	50代	男	大阪
奈良井	旧中山道の宿場の風情をよく残している。住んでいる人が町並みを保存しようと努めている。	60代	女	大阪
渋温泉	古い町並みがあり、公衆浴場巡りが出来るところなのですが、日本の昔を今も日常として生活している。古き良き時代を感じた。	20代	女	岐阜
軽井沢	街のつくりも落ち着いているので、リラックスできる。歩いている買い物も苦にならない、街のつくりだった。	30代	女	福島
別所温泉	日本の伝統的なものでなしの心。	40代	男	東京
志賀高原	自然を極力壊さず、調和している。ホテルで夕陽を見るミニツアーを催していて、山の雄大さ、美しさを体験できる。	50代	男	埼玉
小布施	町並みに統一感があってきれいだった。	60代	女	静岡
<b>(大阪)</b>				
大阪	地域の人がみんな温かくてパワフルなところが良い	20代	男	東京
大阪	高い精神、すぐに打ち解ける感覚	20代	男	福岡
大阪	人はみんな明るくて情が深いし、賑やかなところ	20代	女	兵庫
大阪	都会だけとあまり観光客として気負いなく街を歩いたり、お店に入ったりできる。流行に流されず、個人主義的でファッションも自由な感じを受ける。関西弁という言葉のパワーかもしれない。	30代	女	京都
大阪	他人と知り合いのようにすぐ話をする所や底知れない活力を感じる。東京とはぜんぜん違う。	40代	女	東京
大阪	ウエルカム感を強く感じました。	40代	女	愛知
大阪	関西弁を聞くと同じ日本とは思えないところがある。	40代	男	神奈川
大阪	にぎやか。せわしい。外国人と共存している。	50代	女	神奈川
大阪	東京とはまったく違ったスタイルを強く感じた。特にデパートの地下や、レストランなどで。	50代	女	東京
新世界	いわゆる観光地というよりも、リアルな庶民の生活がそこにあったのが興味深かった。	30代	男	埼玉
ミナミ	大阪独特の空気なのか、お店の人も、行き交う人も、建物の外観も、食べ物も『現代』という時間の流れの中で、根本的な"商人"的なものが壊れずそのまま残っていて、いつ行っても不思議な街だと思います。	30代	女	愛知
<b>(福島)</b>				
会津若松	昔ながらのものと現代的なものの融合	30代	男	千葉
会津若松	歴史を感じる町並み、城下町の雰囲気が良い	30代	男	福島
会津若松	列車が遅れてもたいしたことがないという風潮。それに慣れていない我が家は切符&ルート変更を余儀なくされたが、それもまた珍しいことらしい。明らかに都内と時間の流れがズレている。	40代	女	東京
会津若松	独自の文化と独自の歩み	40代	女	福島
会津若松	積雪盆地にて他の地域に無い、近所付き合いみたいなものを感じた。	50代	男	神奈川
大内宿	古いものを守っていくという精神。	20代	男	千葉
大内宿	江戸時代にタイムスリップしたような作り物ではない本物の日本の歴史に触れる事が出来た。	30代	女	神奈川
大内宿	かやぶき屋根の町並みが何とも独特な感じが懐かしかったです。	40代	女	埼玉
西会津街道	日本昔話の世界、時計が止まって雰囲気、人々の笑顔がどこか懐かし(特にお年寄り)古き良き日本が残ってる。	40代	女	埼玉
会津の寺	平安・鎌倉時代の仏像が残されておりその当時の文化が読み取れる	60代	男	宮城
土湯温泉郷	土湯温泉町は、土湯温泉ばかりでなく磐梯吾妻スカイラインに沿って一大パノラマが展開する。その自然に恵まれた中に点在する旅館は、それぞれに個性を持ち、訪ねる人々を心から癒してくれる。	70代	男	千葉
<b>(三重)</b>				
伊勢神宮	江戸時代に多くの人が御伊勢参りをしにくるのがわかるくらい、神秘的でその中だけ現実とは違うような気がしました。	20代	男	静岡
伊勢神宮	日本の正当な神道の世界観があり、あらためて「お伊勢参り」の意味がわかった。	30代	男	愛媛
伊勢神宮	神聖でとても清々しく、時間の流れも違います。訪れるたびに、物質的なものよりも大切なことがあることに気がつかされます。	30代	女	東京
伊勢神宮	長い歴史を感じさせ、心が落ち着きました。	40代	女	神奈川
伊勢神宮	神様の気配をかんじる	50代	男	福岡
伊勢神宮	荘厳な建造物がないことに、日本人の精神性が如何にシンプルなものであったか、再認識できた。	50代	女	大阪
伊勢	伊勢神宮は神様のトップだけあって厳かな雰囲気と素晴らしい。おかげ横丁などの町並みも風情があって癒される。	20代	女	埼玉
伊勢	伊勢神宮正式参拝をして神秘的な空間を体験した	60代	女	京都
伊勢神宮	遷宮を含め儀式、建物、自然崇拜など価値と技術の継承を文化としている。人の集まるのも歴史の中の自然の時間と人の一生の儚さの対比ではないでしょうか。	60代	男	東京
<b>(奈良)</b>				
奈良	歴史と共存している。そのせいか、人がとても穏やかな気がした。	20代	女	岐阜
奈良	歴史や懐かしさを感じた	40代	女	愛知
奈良	京都より古い歴史があり京都から比べると華やかさはないが落ち着きがあり、時間がゆっくり流れている感じがして良い	40代	女	東京
奈良	悠久の歴史を感じた	50代	女	埼玉
奈良	世界遺産が一番多いので、一つずつ見て素晴らしいを感じる。斑鳩の方へ行くと時がたつのも忘れる。	50代	女	千葉
奈良	悠久の時の流れをどの街筋を歩いても感じる。太古から途切れず続いてきている血の流れのようなもの。	60代	女	千葉
高取城跡	無常感。荒涼感。	30代	女	大阪
天川村	自然に溶け込んだ生活をしており、水がとても澄んでいて、時の流れを忘れるぐらい静寂なところでした。	20代	男	大阪
奈良町	昔からの文化や時がゆったりと流れている感じがする	60代	女	石川

## 2007年10-12月期 観光地動向

### 安定した天候とイベント好調から前年を上回る、宿泊は2期連続で減少

#### ○観光客数の動向(2007年10-12月期)

2008年2月に実施した「JTBF 観光地動向調査」によると、2007年10-12月期の観光客数は前年と比べDI2.0%ポイント増となった<sup>1</sup>。ガソリン価格高騰による入込減は一部で見られたものの、全般的にイベントが好調で、天候も安定していたことから前年を上回った。

地域別にみると、北海道についてはガソリン価格の高騰から2期連続でDIはマイナスだった。東北は「北東北デスティネーションキャンペーン(DC)」(07年7月1日～9月30日)効果の継続に加え、「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」(08年10～12月開催)のプレキャンペーンにより入込増となった。それ以外にもメディアへの露出が増えたことからDIは4.6%ポイント増となった。

甲信越については、スキー場は概ね好調だったものの、中越沖地震の影響が続いたことからDIは前期に続きマイナスとなった。

東海については、「伊勢志摩キャンペーンー美し国、まいろう」(07年10月1日～08年3月31日)実施に伴い行われたPR効果から、DIは7.5%ポイント増となった。近畿・中国・四国・九州は主にイベントの好調からDIはプラスとなった。

観光地タイプ別にみると、温泉観光地ではガソリン価格の高騰が大きく影響し、前年を大きく下回った。それ以外の観光地タイプでは、概ね前年並みか上回る結果となった。

日帰りについては、日帰り向け観光施設の好調からDIはプラスとなった。

宿泊については宿泊施設の閉鎖・老朽化による減少に加え、県外からの入込が減っているとの回答がみられ、DIは9.4%ポイント減となった。

<sup>1</sup> 前回調査から観光客数の増減傾向については実数または前年比を数値で記入する形式から「かなり増」「やや増」「前年並み」「やや減」「かなり減」の5段階からひとつ選ぶ形式に変更した。

表 1 観光客数の推移

		2006年		2007年				
		10-12月期		1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	
		前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	DI (%ポイント) (*1)(*2)	DI (%ポイント) (*1)(*2)	有効 サンプル数 (件)	
全体		1.9	7.2	1.1	△ 8.5	2.0	355	
地域別	北海道	△ 5.7	11.8	0.0	△ 49.1	△ 26.5	34	
	東北	△ 0.4	8.0	△ 1.0	△ 13.8	4.6	65	
	関東	6.2	3.5	5.5	0.0	1.6	63	
	甲信越	0.6	8.6	3.1	△ 43.5	△ 14.7	34	
	東海	1.4	10.5	4.5	13.3	7.5	40	
	北陸	△ 3.0	-	△ 9.5	△ 33.3	△ 25.0	12	
	近畿	8.9	△ 0.5	△ 0.3	25.0	15.6	32	
	中国	4.7	11.8	△ 1.3	25.0	10.5	19	
	四国	16.5	3.4	△ 0.3	17.6	30.0	20	
	九州	△ 1.0	△ 0.4	△ 1.2	9.4	11.1	36 (*3)	
	沖縄	3.0	-	-				
観光地タイプ別	温泉観光地	1.5	5.8	△ 0.4	△ 29.2	△ 41.4	29	
	自然観光地	2.0	4.8	△ 0.9	△ 15.9	0.7	145	
	歴史観光地	2.0	4.9	3.5	14.5	10.3	58	
	都市観光地	△ 12.4	1.5	1.7	10.0	14.3	7	
	農山漁村観光地	△ 0.1	△ 1.0	5.0	△ 11.1	24.4	41	
	(*4) 観光地ではない	5.8	18.0	1.0	△ 7.2	△ 0.0	71	
宿泊別	日帰り	1.4	7.6	△ 0.2	△ 4.4	2.3	347	
	宿泊	△ 1.1	4.3	2.1	△ 14.6	△ 9.4	329	

(\*1) 前回調査から観光客数の増減傾向については実数または前年比を数値で記入する形式から「かなり増」「やや増」「前年並み」「やや減」「かなり減」の5段階からひとつ選ぶ形式に変更した。

(\*2) DI(Diffusion Index)は「かなり増」「やや増」との回答比率から「やや減」「かなり減」との回答比率を引いた指数。

(\*3) 前回調査から九州と沖縄を合わせた集計結果の表示に変更した。

(\*4) 前回調査から観光地タイプ「リゾート(ビーチ)」「リゾート(山岳)」「その他」を廃止、表記の6タイプに変更した。



## 4-6 月期は各種イベントの実施により全国的に前年を上回る見通し

### ○今後の見通し(2008 年 1-3 月期、4-6 月期)

観光客数の見通しについて、2008 年 1-3 月期は DI2.9%ポイント増、4-6 月期については 15.8%ポイント増といずれもプラスの見通しとなった。特に 4-6 月期は全ての地域、観光地タイプでプラスとなっており、観光客の増加が期待される。

地域別にみると北海道については、1-3 月期はガソリン価格高騰の影響で DI はマイナスの見通しとなったが、4-6 月期は洞爺湖サミット効果が見込まれることから、プラスとなった。

東北については、平泉の世界遺産登録が期待されることから、DI はプラスの見通しとなった。関東については、1-3 月期はちば観光キャンペーン「早春ちばめぐり」(08 年 1 月 1 日～3 月 31 日) の効果が期待される。4-6 月期は新規施設のオープン、圏央道開通(鶴ヶ島 JCT～川島 IC) などで登山客、ハイカーの来訪増加が見込まれることから DI はプラスとなった。

甲信越については、1-3 月期は降雪量が多いことが予想され、スキー場以外ではマイナスに影響することから DI はマイナスとなった。4-6 月期は地震の影響もほぼ収束に向かうとみられ、DI はプラスとなった。北陸については、スキー客の増加が期待されることやイベント実施により前年比増との見方を示した。

東海については、各種イベントが予定されていることから DI はプラスの見通しとなった。

近畿、中国については、1-3 月期は天候不順やガソリン価格の値上がりの影響し、DI はマイナスとなったが、4-6 月期はイベント効果で増加が見込まれる。

四国、九州・沖縄についても、各種イベントによる増加が見込まれることから、DI はプラスの見通しとなった。

観光地タイプ別では、温泉観光地・農山漁村観光地は天候の影響から 1-3 月期は DI はマイナスとなったが、4-6 月期については全ての観光地タイプで前年を上回る見通しとなっている。

(相澤 美穂子)

表 2 観光客数の見通し

		2008年			
		1-3月期		4-6月期	
		DI (%ポイント)	有効 サンプル数 (件)	DI (%ポイント)	有効 サンプル数 (件)
全体		2.9	450	15.8	443
地域別	北海道	△ 12.0	50	6.4	47
	東北	6.6	76	22.7	75
	関東	11.9	84	14.5	83
	甲信越	△ 10.0	40	7.5	40
	東海	10.0	50	10.2	49
	北陸	23.1	13	38.5	13
	近畿	△ 14.3	42	16.7	42
	中国	△ 11.1	27	22.2	27
	四国	8.7	23	17.4	23
	九州・沖縄	15.6	45	18.2	44
観光地タイプ別	温泉観光地	△ 7.5	40	17.5	40
	自然観光地	3.4	177	15.7	172
	歴史観光地	7.5	80	28.2	78
	都市観光地	0.0	11	10.0	10
	農山漁村観光地	△ 2.0	49	6.1	49
	観光地ではない	2.3	87	11.4	88

(※1) DI(Diffusion Index)は「かなり増」「やや増」との回答比率から「やや減」「かなり減」との回答比率を引いた指数。

【本レポートで使用したデータソース】JTBF観光地動向調査

- ・調査期間：2008年1月31日～2月25日
- ・調査対象：全国の自治体観光主管課、観光協会
- ・調査方法：郵送またはE-mailにてアンケートを送付、FAXまたはE-mailで回収
- ・調査数：1,786件
- ・回答数：504件（回収率28.2%）



2007年の観光客数はDI4.3%ポイント増であった。1-3月期については、2006年の豪雪による不調からの反動増がみられ、前年を上回った。4-6月期については、GWは日並びの関係で減少傾向だったものの、好天が続いたことから前年比増となった。7-9月期は一転して悪天候や中越沖地震による影響で前年を下回ったが、10-12月期は回復に転じた。

地域別にみると北海道は、上半期については外国人観光客増加などから概ね好調に推移していたが、後半は悪天候やガソリン価格の高騰が影響し前年を大きく下回った。東北については、7-9月期はマイナスだったものの、デスティネーションキャンペーン効果などから、年間を通じてはDI1.6%ポイント増となった。

関東と東海は主にイベント効果から年間を通じて前年を上回った。甲信越は前半はゴルフ客の入りこみや大河ドラマ放映の効果で好調だったが、中越沖地震が大きく影響したことから、DI31.4%ポイント減と前年を大きく下回った。

近畿については、上期は県外客の減少がみられたことなどから前年を若干下回った。下期は観光施設のオープンや入込増がみられたことから、年間を通じてもDI19.4%ポイント増となった。北陸は3月の能登半島地震が大きく影響、年間を通じて前年を下回った。

中国・四国については7-9月期の悪天候によるマイナスを除いては、年間を通じて前年を上回った。九州・沖縄は上半期は修学旅行生の減少などから宿泊客減がみられ、前年を下回ったが、下期は観光施設の好調やイベントによる入込増がみられたことから増加に転じ、年間ではDI11.4%ポイント増となった。

観光地タイプ別では、温泉観光地については、1-3月期は2006年の大雪の影響からの反動増からプラスとなったが、4月以降は天候が大きく影響したこと、また日帰り客の増加傾向が続いていることから、DI15.6%ポイント減と前年を大きく下回った。自然観光地についても悪天候による影響はみられたものの、ハイキング人気やスキー客の増加などから前年を上回った。歴史観光地・都市観光地については大河ドラマ効果やイベントが好調だったことから年間を通じて前年を大きく上回り、それぞれDI27.9%ポイント、66.7%ポイント増となった。

(相澤 美穂子)

表 2007年の観光地動向

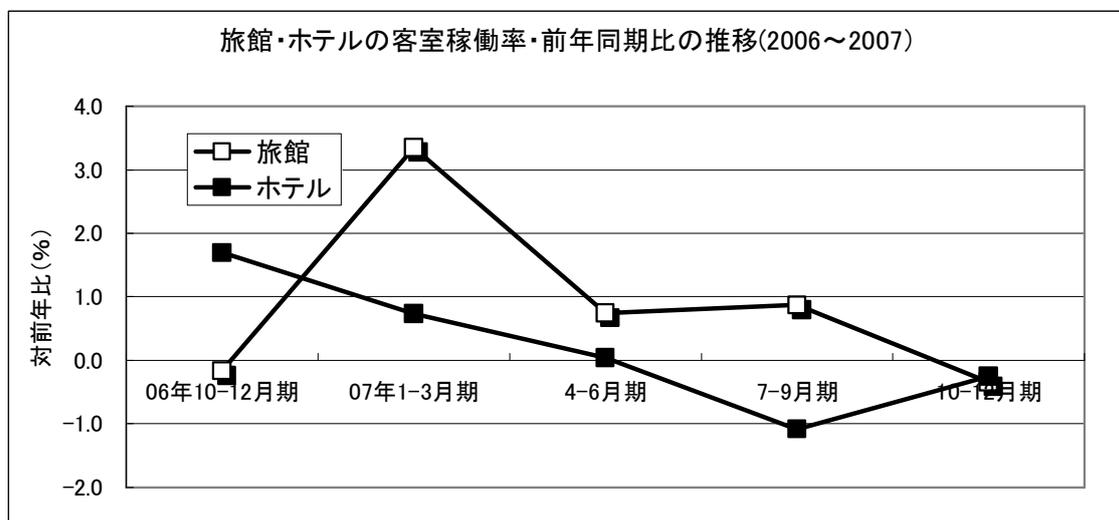
		観光客数	
		DI (%ポイント)	有効サンプル数 (件)
全体平均		4.3	371
地域別	北海道	△ 34.2	38
	東北	1.6	64
	関東	27.9	68
	甲信越	△ 31.4	35
	東海	7.5	40
	北陸	△ 33.3	12
	近畿	19.4	36
	中国	20.8	24
	四国	26.3	19
	九州・沖縄	11.4	35
観光地タイプ別	温泉観光地	△ 15.6	32
	自然観光地	△ 8.1	149
	歴史観光地	27.9	61
	都市観光地	66.7	6
	農山漁村観光地	15.9	44
	観光地ではない	5.3	75

## 2007年10-12月期 宿泊動向

### 旅館の客室稼働率は、原油価格の高騰や紅葉の遅れなどにより微減

08年2月に行った「JTBF 宿泊客動向調査」によると、07年10-12月期の旅館の平均客室稼働率は、原油価格の高騰などの影響もあり60.6%（前年同期比0.3%減）となった。月別にみると、10月は紅葉が例年に比べて遅れたことなどから伸び悩んだものの、12月は3連休が1回（前年は0回）あったことなどから微増となった。

地域別では、前年に土佐二十四万石博が開催されていた「四国」で大きく落ち込んだものの、その他の地域については大きな増減は見られない。また、3月に能登半島地震の起こった石川県や7月に中越沖地震の起こった新潟県では、10月は前年よりも稼働率が低くなったものの、11月以降は増加に転じた施設が多くなっている。



旅館の一泊二食単価は14,575円（前年同期比1.2%増）となり、7四半期連続の増加となった。団体客から個人客への移行や、客室のリニューアル等の設備投資による単価アップの流れが続いているようである。

2007年10-12月の旅館ホテルの客室稼働率と単価

		旅館		ホテル	
		客室稼働率 (%)	1泊2食平均単価 (円)	客室稼働率 (%)	ルームチャージ (円)
		下段は対前年同期比(%)		下段は対前年同期比(%)	
全体平均		60.6	14,575	72.7	9,387
		△ 0.3	1.2	△ 0.3	0.2
地域別	北海道	54.5	9,667	66.8	5,392
		△ 1.2	2.1	0.6	△ 0.9
	東北	61.5	12,567	64.5	7,434
		1.5	1.0	△ 0.7	0.3
	関東	61.1	15,450	82.4	10,542
		1.9	1.1	1.2	△ 0.3
	甲信越	58.8	13,357	56.7	12,705
		△ 1.4	0.7	2.8	1.6
	北陸	61.5	14,817	66.9	7,153
		△ 0.4	1.3	△ 2.6	△ 1.2
	東海	63.3	18,316	74.1	7,670
		△ 1.3	1.5	2.5	△ 1.2
	近畿	68.5	17,911	78.8	11,415
	1.1	2.8	△ 0.9	1.2	
中国	55.6	15,458	63.9	6,604	
	0.9	5.6	△ 2.1	△ 0.0	
四国	52.4	14,638	67.1	7,879	
	△ 7.4	△ 1.4	△ 4.0	△ 0.5	
九州	61.7	14,963	69.8	9,426	
	△ 1.9	0.1	△ 1.9	0.2	
沖縄	—	—	70.0	—	
	—	—	△ 3.7	—	
* 施設規模別	大規模	65.4	12,602	79.4	11,477
		△ 1.7	1.8	0.5	0.8
	中大規模	65.7	12,955	—	—
		△ 1.2	0.5	—	—
	中規模	58.6	14,184	73.4	7,899
	0.8	2.3	△ 0.6	△ 0.3	
小規模	56.2	16,654	64.3	8,777	
	0.2	0.8	△ 0.7	0.0	

\* 旅館施設規模: 大規模…客室数150室以上、中大規模…70~149室、中規模…40~69室、小規模…39室以下

\* ホテル施設規模: 大規模…客室数201室以上、中規模…101~200室、小規模…100室以下

\* 斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

※本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「対前年同期比」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

## ホテルの客室稼働率は減少に転じるも、単価（ルームチャージ）は増加基調

ホテルの客室稼働率は72.7%（前年同期比0.3%減）で、2四半期連続の減少となった。月別にみると、旅館と同様10月が不調となっている。地域別にみると、前年に航空会社のキャンペーンなどのあった「沖縄」で、減少幅が大きくなっている。

単価（ルームチャージ）は9,387円（前年同期比0.2%増）となった。06年7-9月期の調査で、04年の調査開始以降初めての増加に転じてから、6四半期連続での増加となっている。

## ペンション・民宿は客室稼働率の減少が続くも、公的宿泊施設は増加

ペンション・民宿では平均客室稼働率が 34.9%（前年同期比 3.9%減）と減少傾向が続いている。公的宿泊施設では 59.3%（前年同期比 3.8%増）と増加となった。また、1泊2食平均単価はそれぞれ 8,628 円（前年同期比 2.0%減）、9,896 円（前年同期比 0.1%減）となった。

## 直近（1-3月）は旅館・ホテルともに下方修正。春期（4-6月）は改善の見通し

直近（1-3月）の見通しは、旅館では見通しD I 値が宿泊者数、宿泊売上とも大幅なマイナスとなり、前期調査時よりも下方修正となった。施設のコメントからは、団体客の減少傾向や原油価格高騰による影響を指摘するものが目立っている。特に、1-3月期は地元客の比率が高まる時期であるが（JTBF 観光経済レポート vol. 15 参照）、内閣府の「地域経済動向」（08年2月発表）によると北海道や東北、北陸、四国、九州において個人消費が弱含んでおり、地方における個人消費の停滞感がより大きく影響していると考えられる。

ホテルの直近（1-3月）の見通しD I 値も、旅館と同様に宿泊者数、宿泊売上ともマイナスとなった。施設のコメントからは、競合施設のオープンの影響を指摘するものが目立っている。インバウンド需要については、引き続き稼働率の上昇要因となっているとのコメントが目立つものの、都市部のホテルの中には伸び悩みを指摘するものもみられた。

春期（4-6月）の見通しD I 値については、旅館では宿泊者数と宿泊売上ともに、直近の見通しよりもマイナス幅が縮小している。また、ホテルでも同様の傾向となっている。

（安達 寛朗）

### JTBF 宿泊客動向調査

- ・調査期間: 2008年2月4日～2月28日
- ・調査対象: 全国の旅館、ホテル、国民宿舎等公的宿泊施設、ペンション、民宿
- ・調査方法: e-mail にて回答用サイトへ誘導し、回答者により直接入力
- ・調査数: 2,095 軒
- ・有効回答数: 527 軒(回収率 25.2%)  
うち旅館 201 軒、ホテル 284 軒、その他(公的宿泊施設、ペンション、民宿) 42 軒

旅館の今後の見通し

		サンプル数	DI※(%ポイント)			
			2008年1-3月		2008年4-6月	
			宿泊者数	宿泊売上	宿泊者数	宿泊売上
全体平均		195	△ 29.7	△ 24.1	△ 4.7	△ 6.2
地域別	北海道	17	△ 29.4	△ 29.4	△ 11.8	△ 11.8
	東北	31	△ 35.5	△ 25.8	6.5	3.2
	関東	27	△ 33.3	△ 29.6	0.0	△ 14.8
	甲信越	32	△ 18.8	△ 3.1	△ 25.8	△ 21.9
	北陸	11	△ 45.5	△ 45.5	9.1	9.1
	東海	19	△ 10.5	△ 15.8	△ 5.3	△ 5.3
	近畿	23	△ 21.7	△ 13.0	8.7	18.2
	中国	6	16.7	33.3	20.0	20.0
	四国	11	△ 63.6	△ 63.6	27.3	18.2
	九州	16	△ 56.3	△ 56.3	△ 43.8	△ 43.8
*規模別	大規模	20	△ 25.0	△ 35.0	△ 15.0	△ 5.0
	中大規模	58	△ 22.4	△ 15.5	△ 8.6	△ 8.6
	中規模	51	△ 29.4	△ 21.6	6.1	△ 2.0
	小規模	66	△ 37.9	△ 30.3	△ 6.1	△ 7.6

\*施設規模：大規模…客室数150室以上、中大規模…70～149室、中規模…40～69室、小規模…39室以下

\*斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

※ここでのDI値は、「かなり増」「やや増」とする回答の割合から「やや減」「かなり減」とする回答の割合の差をとったもの。

ホテルの今後の見通し

		サンプル数	DI※(%ポイント)			
			2008年1-3月		2008年4-6月	
			宿泊者数	宿泊売上	宿泊者数	宿泊売上
全体平均		260	△ 18.8	△ 18.6	△ 8.1	△ 5.4
地域別	北海道	22	△ 18.2	△ 18.2	△ 27.3	△ 31.8
	東北	23	△ 26.1	△ 17.4	0.0	4.3
	関東	51	△ 17.6	△ 7.8	△ 15.7	0.0
	甲信越	16	△ 25.0	△ 18.8	△ 25.0	△ 25.0
	北陸	8	△ 50.0	△ 37.5	12.5	0.0
	東海	24	△ 8.3	△ 8.3	4.2	△ 4.2
	近畿	56	3.6	△ 3.6	7.1	14.3
	中国	17	△ 58.8	△ 70.6	△ 11.8	△ 17.6
	四国	8	△ 75.0	△ 75.0	△ 25.0	△ 37.5
	九州	23	△ 4.3	△ 14.3	4.3	△ 4.8
	沖縄	12	△ 41.7	△ 41.7	△ 50.0	△ 33.3
	*別規模	大規模	89	△ 4.5	5.7	△ 6.8
中規模		97	△ 19.6	△ 20.6	2.1	2.1
小規模		74	△ 35.1	△ 44.6	△ 22.7	△ 24.0

\*施設規模：大規模…客室数201室以上、中規模…101～200室、小規模…100室以下

\*斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

※ここでのDI値は、「かなり増」「やや増」とする回答の割合から「やや減」「かなり減」とする回答の割合の差をとったもの。

旅館の客室稼働率の推移

上段:稼働率(%)

下段:対前年同期比※(%)

		サンプル数	2006年	2007年			
			10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
全体平均		181	60.8 △ 0.2	56.2 3.4	54.9 0.7	63.5 0.9	60.6 △ 0.3
地域別	北海道	16	52.8 △ 5.5	55.6 △ 0.1	52.8 △ 0.9	72.9 △ 2.8	54.5 △ 1.2
	東北	30	63.5 △ 1.2	54.7 3.4	54.5 1.5	65.1 4.4	61.5 1.5
	関東	26	61.9 1.6	59.0 5.6	61.7 0.4	65.5 1.3	61.1 1.9
	甲信越	25	60.8 △ 1.3	55.5 1.1	52.4 4.6	56.6 △ 1.2	58.8 △ 1.4
	北陸	11	63.9 2.4	47.0 △ 0.9	44.0 △ 10.2	67.6 △ 3.1	61.5 △ 0.4
	東海	18	60.7 2.4	60.9 3.1	55.1 1.9	63.5 △ 3.7	63.3 △ 1.3
	近畿	20	66.2 0.6	54.3 3.9	58.5 2.3	65.1 4.3	68.5 1.1
	中国	6	48.3 △ 9.1	46.8 4.9	55.0 △ 4.1	59.4 9.6	55.6 0.9
	四国	11	60.4 3.0	50.8 11.3	56.6 2.5	59.2 △ 4.5	52.4 △ 7.4
	九州	16	56.8 △ 2.2	59.5 5.5	52.0 △ 1.2	60.5 4.5	61.7 △ 1.9
*施設規模別	大規模	21	62.4 △ 1.5	58.2 3.8	57.4 0.9	73.8 0.9	65.4 △ 1.7
	中大規模	53	65.7 2.1	62.4 4.5	59.9 1.4	69.1 1.9	65.7 △ 1.2
	中規模	46	61.1 0.1	53.9 5.2	54.5 △ 0.2	57.0 △ 1.2	58.6 0.8
	小規模	61	55.2 △ 1.4	51.5 0.8	48.7 0.6	58.5 1.3	56.2 0.2

\*施設規模：大規模…客室数150室以上、中大規模…70～149室、中規模…40～69室、小規模…39室以下

\*サンプル数は今期調査のもの。

\*斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

※本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「対前年同期比」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

旅館の一泊二食単価の推移

上段：単価(円)

下段：対前年同期比※(%)

	サンプル数	2006年	2007年			
		10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
全体平均	166	13,776 1.9	13,587 0.6	13,152 1.9	14,193 1.3	14,575 1.2
地域別	北海道	13 9,062 0.2	9,491 0.9	9,561 1.5	10,983 1.4	9,667 2.1
	東北	29 12,159 2.0	11,823 1.6	12,141 4.4	13,102 2.7	12,567 1.0
	関東	22 14,422 1.9	12,793 1.2	13,450 2.7	14,425 1.6	15,450 1.1
	甲信越	26 12,445 1.7	11,987 1.5	11,905 1.8	12,978 △ 0.7	13,357 0.7
	北陸	11 14,942 3.3	15,066 1.9	14,333 0.9	17,506 △ 3.3	14,817 1.3
	東海	16 15,061 1.7	15,995 1.1	15,519 1.3	15,882 0.9	18,316 1.5
	近畿	21 16,891 2.9	17,158 △ 0.6	14,687 1.9	15,978 2.5	17,911 2.8
	中国	4 11,390 2.0	13,474 2.5	14,518 4.7	14,762 6.7	15,458 5.6
	四国	11 15,227 2.6	14,452 △ 5.8	15,290 △ 1.5	14,726 2.9	14,638 △ 1.4
	九州	12 13,272 0.0	14,820 1.0	12,426 1.0	13,698 △ 0.8	14,963 0.1
*施設規模別	大規模	16 11,649 △ 0.5	10,715 0.9	10,317 1.6	11,574 0.1	12,602 1.8
	中大規模	47 12,622 1.8	12,044 0.5	12,611 2.0	12,883 △ 0.8	12,955 0.5
	中規模	44 13,607 2.0	12,865 0.2	13,137 3.4	13,516 1.8	14,184 2.3
	小規模	59 16,098 2.7	16,213 1.4	14,980 1.1	17,000 2.9	16,654 0.8

\*施設規模：大規模…客室数150室以上、中大規模…70～149室、中規模…40～69室、小規模…39室以下

\*サンプル数は今期調査のもの。

\*斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

※本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「対前年同期比」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

ホテルの客室稼働率の推移

上段:稼働率(%)

下段:対前年同期比※(%)

	サンプル数	2006年	2007年				
		10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	
全体平均	272	73.7 1.7	69.4 0.7	70.9 0.0	75.3 △ 1.1	72.7 △ 0.3	
地域別	北海道	22	70.3 0.2	63.8 △ 3.7	64.2 △ 2.4	83.5 △ 2.9	66.8 0.6
	東北	23	63.8 1.4	57.7 △ 1.2	61.3 △ 3.9	69.9 △ 2.4	64.5 △ 0.7
	関東	56	82.1 1.8	80.2 1.4	79.0 △ 0.3	80.5 △ 0.0	82.4 1.2
	甲信越	16	57.0 6.0	54.7 6.9	57.0 8.2	62.8 △ 4.3	56.7 2.8
	北陸	9	71.1 △ 0.2	62.9 3.2	65.9 △ 2.2	65.1 △ 11.1	66.9 △ 2.6
	東海	26	73.2 4.5	67.2 1.7	72.2 2.8	74.4 △ 2.1	74.1 2.5
	近畿	58	82.0 3.0	73.7 3.9	78.2 0.8	78.4 △ 1.4	78.8 △ 0.9
	中国	19	67.3 △ 2.9	60.3 △ 3.3	61.6 4.7	65.7 0.2	63.9 △ 2.1
	四国	7	66.3 2.7	64.7 △ 3.8	67.6 △ 3.3	69.3 △ 2.1	67.1 △ 4.0
	九州	23	69.9 1.4	66.5 △ 2.1	65.1 0.0	70.2 3.9	69.8 △ 1.9
	沖縄	13	70.6 △ 0.8	74.6 0.0	66.7 △ 4.8	81.2 3.0	70.0 △ 3.7
*施設規模別	大規模	93	79.1 2.1	73.9 0.7	74.7 △ 0.4	79.9 △ 1.0	79.4 0.5
	中規模	97	74.3 1.2	70.8 1.3	72.3 0.1	75.1 △ 1.5	73.4 △ 0.6
	小規模	82	67.5 2.3	62.0 0.0	64.0 0.6	69.1 △ 0.7	64.3 △ 0.7

\*施設規模：大規模…客室数201室以上、中規模…101～200室、小規模…100室以下

\*サンプル数は今期調査のもの。

\*斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

※本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「対前年同期比」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

ホテルのルームチャージの推移

上段: 単価(円)

下段: 対前年同期比※(%)

		サンプル数	2006年	2007年			
			10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
全体平均		200	8,224 1.3	8,684 1.0	9,265 1.7	9,755 2.3	9,387 0.2
地域別	北海道	13	6,104 0.6	5,366 △ 2.3	6,320 △ 0.6	8,183 1.5	5,392 △ 0.9
	東北	18	6,516 △ 0.2	7,223 △ 0.4	7,353 △ 0.8	7,306 0.3	7,434 0.3
	関東	47	9,786 1.8	10,338 1.8	11,332 2.9	11,037 2.0	10,542 △ 0.3
	甲信越	11	12,242 2.8	9,868 △ 0.3	15,584 2.8	18,365 1.5	12,705 1.6
	北陸	7	7,817 △ 0.2	7,952 3.3	7,288 0.5	6,970 △ 0.7	7,153 △ 1.2
	東海	22	6,832 0.7	7,536 6.8	7,490 1.2	7,818 2.5	7,670 △ 1.2
	近畿	45	9,109 1.9	9,289 0.7	9,456 3.1	10,396 4.3	11,415 1.2
	中国	12	6,500 △ 1.9	7,563 △ 3.1	7,245 0.1	7,502 △ 1.0	6,604 △ 0.0
	四国	7	8,877 4.4	7,257 1.6	7,477 0.9	7,202 △ 0.3	7,879 △ 0.5
	九州	17	6,466 0.3	7,925 0.8	8,880 0.5	9,259 2.8	9,426 0.2
	沖縄	1	8,749 3.9	8,339 2.2	8,612 △ 2.1	13,960 5.7	- -
* 施設規模別	大規模	68	9,952 1.6	10,406 1.7	10,984 3.7	11,405 3.7	11,477 0.8
	中規模	71	6,972 0.7	7,480 2.0	7,668 0.5	7,736 1.9	7,899 △ 0.3
	小規模	61	8,047 1.5	8,286 △ 0.8	9,159 0.4	10,279 0.3	8,777 0.0

\* 施設規模：大規模…客室数201室以上、中規模…101～200室、小規模…100室以下

\* サンプル数は今期調査のもの。

\* 斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

※本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「対前年同期比」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。



ペンション・民宿、公的宿泊施設の推移

上段:稼働率(%)、1泊2食単価(円)

下段:対前年同期比※(%)

		サンプル数	2006年	2007年			
			10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
稼働率	ペンション・	7	37.0	30.1	24.9	46.6	34.9
	民宿		△ 1.5	△ 6.5	△ 10.6	△ 3.2	△ 3.9
	公的宿泊	30	60.5	57.4	62.6	65.3	59.3
	施設		△ 0.1	6.5	2.8	△ 2.8	3.8
1泊2食単価 (円)	ペンション・	7	10,708	8,751	7,887	8,244	8,628
	民宿		△ 1.4	3.8	1.4	△ 0.2	△ 2.0
	公的宿泊	23	9,835	9,042	9,324	9,581	9,896
	施設		1.8	△ 0.9	△ 1.3	△ 0.6	△ 0.1

\* サンプル数は今期調査のもの。

\* 斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。

※本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「対前年同期比」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

(安達 寛朗)

2007年の旅館、ホテルの動向

2007年通年の旅館の客室稼働率は、57.5%（前年比0.2%減）となり、微減ながら4年連続の減少となった。地域別に見ると、能登半島地震や中越沖地震などの影響により、「北陸」で大幅に落ち込んでいるほか、「四国」や「北海道」でも低迷している。また宿泊単価は、団体客から個人客への移行や、客室のリニューアル等の設備投資による単価アップ、経営方針の変化（稼働率重視から宿泊単価重視へと変化）などにより14,488円（前年比1.2%増）と2年連続で増加した。

2007年のホテルの客室稼働率は、新規競合施設の増加などにより71.7%（前年比0.3%減）と3年ぶりに減少に転じた。また、宿泊単価は9,527円（前年比1.3%増）となり、旅館と同様2年連続の増加となった。

		旅館			ホテル		
		サンプル数	客室稼働率	1泊2食平均単価	サンプル数	客室稼働率	ルームチャージ
全体平均		171	57.5	14,488	252	71.7	9,527
			△ 0.2	1.2		△ 0.3	1.3
地域別	北海道	16	57.6	10,729	22	68.4	6,430
			△ 3.7	1.3		△ 2.4	△ 1.6
	東北	27	57.6	12,546	22	63.5	7,733
			2.6	2.0		△ 1.7	△ 0.1
	関東	23	57.6	15,656	52	80.0	10,734
			0.3	1.0		0.6	1.6
	甲信越	25	54.7	13,341	15	59.9	15,589
			1.4	1.2		0.4	1.2
	北陸	11	57.5	15,473	7	64.1	8,005
			△ 5.4	0.3		△ 2.3	0.1
	東海	16	60.7	17,592	21	70.3	7,825
			0.0	1.4		△ 2.2	1.2
	近畿	20	63.0	17,027	54	76.9	10,997
			1.0	2.7		0.3	2.7
中国	5	49.0	14,905	19	61.3	6,586	
		0.0	5.1		1.6	0.0	
四国	10	51.2	14,047	7	66.9	7,328	
		△ 4.3	△ 1.4		△ 0.1	△ 0.7	
九州	16	58.7	14,758	19	71.9	8,393	
		0.1	△ 1.3		0.6	1.0	
沖縄	-	-	-	14	72.8	-	
					△ 2.2		
*施設規模別	大規模	20	64.5	12,718	88	79.0	11,268
			△ 0.8	0.8		0.4	3.2
	中大規模	49	63.5	12,843	-	-	-
			0.8	0.6			
中規模	44	54.1	14,013	88	72.3	7,867	
		△ 0.3	1.9		△ 0.9	△ 0.3	
小規模	58	52.8	16,477	76	62.4	9,401	
		△ 1.0	1.4		△ 0.7	0.3	

\*旅館施設規模：大規模…客室数150室以上、中大規模…70～149室、中規模…40～69室、小規模…39室以下

\*ホテル施設規模：大規模…客室数201室以上、中規模…101～200室、小規模…100室以下

\*斜字体はサンプル数が10軒に満たないもの。サンプル数は、稼働率の回答施設数。

※本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「対前年同期比」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

(安達 寛朗)

JTBF観光経済レポート 付属統計表

2008年3月10日現在

項目名		暦年	2004年	2005年	2006年	2007年					データ出所および注記		
						2006年 10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期			
国内旅行	発地	宿泊旅行者数 (15~79歳)	(万人回)	21,148	20,610	20,285	5,859	-	-	-	-	(財)日本交通公社「JTBF旅行量調査」 平成18年10~12月期をもって、調査の方は終了しました。	
			(前年同期比)	△ 3.2	△ 2.5	△ 1.6	△ 2.9	-	-	-	-		
	発地	宿泊旅行単価 (15~79歳)	(千円/人回)	38.5	38.4	37.0	36.7	-	-	-	-		
			(前年同期比)	△ 0.0	△ 0.1	△ 3.7	△ 4.4	-	-	-	-		
	国内旅行	観光施設利用者数	入込総数	(前年同期比) (D1値:%)	0.7	2.7	0.9	1.9	7.2	1.1	△ 8.5*	2.0*	(財)日本交通公社「JTBF観光地動向調査」 * 前回の調査から観光客数の増減傾向については実数または前年比を数値で記入する形式から「かなり増」「やや増」「前年並み」「やや減」「かなり減」の5段階からひとつ選ぶ形式に変更した。
				(D1値:%)	△ 18.7	△ 17.8	△ 10.1	△ 2.0	7.9	1.0	△ 3.6	△ 4.2	
		旅館	定員稼働率	(%)	39.6	39.8	39.4	-	-	-	-	-	(財)日本交通公社「JTBF宿泊客動向調査」 注)前年同期比の増加率は、各期の最新調査で得られたサンプルの回答をもとに算出。 2006年7~9月期から、四半期の定員稼働率は調査していない。
					(前年同期比)	△ 6.9	△ 1.8	△ 1.9	-	-	-	-	
			客室稼働率	(%)	57.0	57.3	58.2	60.8	56.2	54.9	63.5	60.6	
					(前年同期比)	△ 2.4	△ 0.5	△ 0.2	△ 0.2	3.4	0.7	0.9	
		一泊二食単価	(千円)	13.6	13.9	13.5	13.8	13.6	13.2	14.2	14.6		
				(前年同期比)	△ 0.6	△ 0.2	1.1	1.9	0.6	1.9	1.3	1.2	
		ホテル	定員稼働率	(%)	60.6	62.7	62.8	-	-	-	-	-	
					(前年同期比)	△ 0.9	2.1	0.7	-	-	-	-	-
	客室稼働率		(%)	69.9	71.3	72.6	73.7	69.4	70.9	75.3	72.7		
				(前年同期比)	△ 0.3	1.9	0.9	1.7	0.7	0.0	△ 1.1	△ 0.3	
	ルームチャージ	(千円)	8.7	8.9	8.2	8.2	8.7	9.3	9.8	9.4			
		(前年同期比)	△ 1.8	△ 0.6	0.3	1.3	1.0	1.7	2.3	0.2			
運輸	航空旅客数(国内線合計)	(万人)	9,377	9,442	r 9,634	2491	2325	2251	r 2,569	r 2,404	国土交通省「国土交通月例経済」 注) r 改定値 注) p 速報値 注) ** 12月分を除いたデータ		
			(前年同期比)	△ 3.0	0.7	2.0	4.7	2.8	△ 1.7	r △ 0.9		p △ 3.5	
	鉄道	JR定期外旅客数	(万人)	329,883	332,681	335,170	85249	83693	86308	p 87,444	p 88,068**		
				(前年同期比)	0.4	0.8	0.7	1.4	2.5	4.0	p 2.5	p 3.0**	
		新幹線旅客数	(万人)	28,916	30,095	30,335	7,813	7399	7721	r 8,117	p 5,768**		
		(前年同期比)	3.2	4.1	0.8	2.4	2.4	3.6	p 3.4	p 3.2**			
	高速道路通行台数日平均	(万台/日)	409	422	437	445	431	440	466	450	(財)高速道路調査会「高速道路と自動車」		
		(前年同期比)	1.7	3.2	3.4	△ 0.9	3.6	2.6	2.0	1.1			
主要旅行業者63社国内取扱額	(十億円)	3,210	3,211	r 3,340	829	697	938	1,155	1,062	国土交通省総合政策局旅行振興課 注)2007年1-3月期迄は50社取扱額の数値			
		(前年同期比)	△ 2.8	0.0	4.0	0.5	2.2	0.4	4.4		2.0		
海外旅行	日本人出国者数	(万人)	1,683	1,740	1,753	440	436	398	r 465	p 431	国際観光振興機構(JNTO) 注) r 改定値 注) p 速報値		
			(前年同期比)	26.6	3.4	0.8	△ 0.1	1.0	△ 2.8	r △ 1.5		p △ 2.1	
海外旅行	主要旅行業者63社海外取扱額	(十億円)	2,320	2,459	r 2,618	654	598	634	786	680	国土交通省総合政策局旅行振興課 注)2007年1-3月期迄は50社取扱額の数値		
			(前年同期比)	28.5	6.0	6.4	6.1	6.6	1.0	1.1		3.0	
訪日旅行	外国人旅行者数	(万人)	614	673	733	188	193	201	r 225	p 215	国際観光振興機構(JNTO) 注) r 改定値 注) p 速報値		
			(前年同期比)	17.8	9.6	9.0	14.7	13.3	10.7	r 16.8		p 14.4	
主要経済指標	GDP (名目・原系列)	(十億円)	r 498,328	r 501,734	r 508,925	134441	126577.9	128231.3	r 125,575	p 135,332	内閣府経済社会総合研究所 注) r 改定値 注) p 速報値		
			(前年同期比)	1.6	0.7	1.4	1.7	2.5	1.2	r 1.1		p 0.7	
	GDP (実質・原系列)	(十億円)	r 526,578	r 536,762	r 549,631	142648.1	139293.3	137364.8	r 139,181	p 145,452			
			(前年同期比)	2.7	1.9	2.4	2.3	3.0	1.7	r 1.7	p 2.0		
東京外為銀行間平均	(円/ドル)	108.2	110.2	116.3	117.8	119.4	120.7	117.8	113.1	東洋経済新報社			
		(前年同期比)	△ 6.6	1.8	5.5	0.4	2.1	5.5	1.4		△ 4.0		

## 出版物のご案内

当財団では、旅行・観光に関する各種出版物を発行しています。

### 旅行年報(年1回 9月発刊)



「旅行年報」は過去一年間の旅行・観光分野の動向とこれからの展望について、データとトピックスで解説。定期的な発行をはじめた1981年以来、今年で26年目を迎えます。

最新「旅行年報2006」では2005年4月から2006年上期に至る旅行市場の動きをデータを交えて解説します。

### Market Insight(日本語版)(英語版) (各年1回発刊)

日本人海外旅行マーケットの構造的な変化とその要員を詳細に解説したレポート。2005年の最新市場動向をカバー。財団法人日本交通公社の独自調査をもとに、変化の下に働く中・長期的ダイナミズムを明らかにしています。



### 観光文化 (年6回 奇数月発刊)



旅や観光の文化に関する多彩なテーマについて、各界の方が執筆。

※バックナンバーに関しては当財団HPをご覧ください。

### JTBF 観光経済レポート (年4回 3, 6, 9, 12月発刊)

全国の消費者および観光業界を対象として四半期ごとに実施するアンケート調査結果を分析し、最新の旅行市場の局面を描き出します(サンプル数:消費者約1,300人、観光地・宿泊施設約1,000軒)。



### 自主研究レポート (年1回発刊)



当財団が自主事業(観光文化振興事業)の一環として重点的に取り組んでいる「自主研究」をまとめた調査研究成果。

---

## ● 旅行者動向～国内・海外旅行者の意識と行動 (年1回7月下旬発刊)

最新の旅行の実態や旅行者の意識に関する全国アンケート調査結果を、当財団独自の切り口で分析、グラフや図表を多用してわかりやすく解説。

旅行・観光関連の政策立案や事業展開などに幅広く活用していただけるマーケティングデータ集です。



---

## ● 観光読本

(第2版、発行: 東洋経済新報社、2004年発刊)



観光全般について広く基本的な事項を網羅した概論と、当財団研究員による分析・提言をまとめた書籍。初めて観光分野に従事する自治体の担当者や旅行業界に従事されている方、観光を学ぶ学生の方々の入門書として最適。

---

## ● 美しき日本～いちどは訪れたい日本の観光資源 (日本語版 1999年発刊、外国語版 2000年発刊)

日本人および日本を訪れた外国の方々が、一度は訪れる価値のあるわが国の観光資源 391 か所を美しい写真と解説文で紹介する写真集。外国語版は、英語・中国語・韓国語を併記。



---

## ● 魅力ある自然ガイドツアーづくりの手引き

(監修: 国土交通省総合政策局 2005年発刊)



自然ガイド(インタープリテーション)ツアーを地域で具体的にどのように進めていくのか、地域の実情に応じて解説。ツアー体験者の「生の声」も多数収録、参加者の満足度も重視した内容。

---

## ● 実践講座インタープリテーション (監修: 国土交通省総合政策局観光部、2002年発刊)

インタープリター(自然ガイド)実践者向けの参考書。楽しいツアー作りのためのプログラム開発方法やメッセージを伝えるテクニックを、豊富な実例とともに解説。



## 自然ガイドのためのおもしろヒントブック

(監修:国土交通省総合政策局観光部、2002年発刊)



自然ガイドツアー・プログラム作りのための素材集。自然の題材が発するメッセージを数多く収集。

## エコツーリズム さあ、はじめよう!

(編集:環境省・JTBF、2004年発刊)

エコツーリズムとは何か、推進の手順とその重要なカギとなるルールとガイドダンスとは、そして地域資源の保全と持続的利用を可能とする資源管理のあり方などをまとめた、エコツーリズムを推進する方に向けた手引書。2003年に設置された「エコツーリズム推進会議」(議長:小池百合子環境大臣(当時))での議論を環境省と当財団が編集。



## 平成18年度観光実践講座講義録 地域主体の観光を考える

～こうして地域はその気になった～ (2007年発刊)



当財団主催の観光実践講座から、はじめての講義録出版です。

旅行者にとって「観光」の意味は変化し、地域の暮らしや生活、景観に興味をもつ人が増えています。一方、地域の自治体や住民にとっても、住みよい快適な地域づくりと観光の関係の深さや可能性が重要になってきました。「観光」はすでに観光事業者だけが取り組む課題ではなくなっているのです。

2日間の7つの講座に「地域主体の観光を考える～こうして地域はその気になった」を共通テーマとしておき、各地で実践される講師の皆さんにご講義をいただきました。

講座参加者の皆さんからたいへん役にたったとのお言葉をいただき、講義の内容を再現して、地域振興にかかわる多くの方々にもお伝えできるようにと、このほど発刊いたしました。

## 産業観光への取り組み

基本的考え方と国内外主要事例の紹介



全国の地域活性化や地域観光に関わる人々、商工業者、自治体、NPO等から熱い注目を集めている「産業観光」への取り組みと「着地型旅行商品(地域の側でつくる旅行商品)」について、産業観光先進地(国内20事例、海外3事例)を例に、多くの写真とともにわかりやすく体系的に、さらに今後のあり方、取り組み方について紹介した業界初の本。

書籍の詳細内容は当財団ホームページ  
<http://www.jtb.or.jp> をご覧ください。  
こちらのページよりご購入いただけます。

**JTBF 観光経済レポート Vol.18**  
**(2007年10-12月期)**

2008年3月発行

頒布料：1,050円(本体価格1,000円)

**発行：財団法人日本交通公社**

**観光文化事業部**

**発行人：新倉 武一**

**編集人：小林 英俊**

**編集：雨宮三津子・塩谷英生**

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 第一鉄鋼ビル9階

TEL：03-5208-4704 FAX：03-5208-4707

ホームページ：<http://www.jtb.or.jp>

E-mail：[jtbfbok@jtb.or.jp](mailto:jtbfbok@jtb.or.jp)

本書を許可なく複製することは固く禁じます。許諾については、当財団の観光文化事業部までご照会ください。

